

○司会（武市財務局長） 最初はこちらにお願いします。

（東京都議会自由民主党 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

どうぞ御着席をお願いいたします。

これより平成29年度予算編成に関する要望を始めさせていただきます。

まず、冒頭、知事から一言お願いいたします。

○小池知事 皆様、こんにちは。

改めてこうやって御挨拶をするのも、何だか妙な感じがするかもしれませんが、本日、このような形で、都民の皆様方を代表する方々、各政党の方々から御要望を伺うという趣旨で、全てネットで公開もさせていただいております。

また、高木幹事長を初めとする都議会自民党の皆様方におかれましては、日ごろより大変さまざまな御協力、御支援を賜っておりますこと、時には厳しい御指導を賜りまして、まことにありがとうございます。

都議会を構成する各党派からの御要望を伺うということでございます。既にこれまでも前の待機児童対策の折もそうございました。また、実行プランについての御意見もそのたびにお寄せいただいております。

今回は、いよいよ予算ということになります。予算編成に当たりまして、私にとりましても初めてのことでございますけれども、東京大改革、都民ファーストというキーワードを訴えさせていただいていることを実行していきたいと思っております。また、予算編成についても、さらなる透明化を図るということも私の一つの大きな目標でございます。

一方で、東京の現場については、皆様方が津々浦々、日々都民の皆さんと接しておられるということでございます。だからこそ、皆様方から直接お話を伺う、御意見を伺う、御要望をお伺いすることが、今回の東京都予算編成に対しましても大変大きな意味を持ってくる。その有効性を高めるというように思うところでございます。

この間、60にわたります団体の皆様、短い時間ではありますけれども、しかしながら、その分極めてエッセンスを高めた、そのような御要望も賜ったところでございます。6日間にわたりましての直接の御意見、御要望を伺うこととなったわけでございますけれども、本日は、その締めといたしまして、ともに都民を代表しておられる先生方、各党派の皆様方から直接御意見、御要望を伺う。このことは大変重要なことだと考えております。

2回、定例会を経験させていただきました。私も多く学ぶところがございました。これから、地方自治のモデルケースになるようなことを互いに模索していければというように思っているところでございます。

また、数々の各国の都市が今、大変な国際間、都市間競争を行っているということで、スピード感も重要だと思っております。さらには、東京オリンピック・パラリンピック2020が開かれ、また、委員会が開かれているということで、これからも皆様方にもっとコミュ

ニケーションをよくして、これまでの会場の選択という点では、皆様方のこれまでの積み重ねと大きく違う点なども出させていただきましたが、ここで主なところも定めたということから、これからはわくわく感を都民の間に持っていただくための、そういった作業が必要になってくると思っております。それだけに皆様方の御意見を伺いたいというのが1点。それから、待機児童対策、少子化対策、高齢化対策といえますか、高齢社会にもなっていますので、どのようにしていくのか。そして、首都直下型地震対策と、課題は山積みでございます。

皆様方からの要望書も大変分厚いものとなっておりますが、きょうはこの時間を活用して、皆様方から直接の御要望をしっかりと受けとめたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございます。

○司会（武市財務局長） ありがとうございます。

早速ではございますけれども、御説明等をお願いしてよろしゅうございませうか。

○東京都議会自由民主党 小池知事におかれましては、連日の御公務まことにお疲れさまでございます。大変な激務であると思っておりますので、本当に連日の御尽力に心から敬意を表したいと存じます。きょうは、大変お忙しいお時間を、こうして私たちの要望を聞いていただくお時間をとっていただきましたことに、改めまして感謝を申し上げたいと存じます。

私たち東京都議会自由民主党は、この第19期都議会が始まる前に、知事のお手元にお渡しをさせていただきましたこれが当時の公約集でございます、これにもとづいて、実は「東京を世界で一番の都市に」、この提言を2回お渡しさせていただきました、最終的に今の長期ビジョンになっているわけでありまして。

したがいまして、私たちは、この第19期都議会が始まる前に、都民の皆さんにお約束をしたことがまさに平成29年度の予算が最後の集大成になろうと思っておりますので、ぜひ知事におかれましても、初めての予算編成になるとおっしゃられましたとおりでありまして、私たちにとりましては、これが19期の最後の予算編成でございますので、それぞれの思いを政策の裏づけとしての予算の中にできるだけ反映していく。私たちの要望、予算の項目も吟味をしていただいて、知事にお取り上げをいただければ大変ありがたいと思っております。ぜひ、ひとつよろしくお願い申し上げたいと思っております。

私たちの要望の御説明でございますが、お手元にお配りさせていただきました冊子がございますが、一番上にこれをつけさせていただいておりますでしょうか。重点5項目という3枚の紙をつけさせていただいたと思うのですが、ことしの予算のお願いは、大変分厚い本編と概要版と、さらにそれを絞りまして、平成29年度、特に私たち自民党として5点の重点項目を定めさせていただいて、きょうはお願いに上がった次第でございます。

1点目は、ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックの成功に向けてということで、ぜひともその夢と希望にあふれる都民・国民が一丸となって取り組むことができるスポーツと文化のすばらしい明るい祭典を実現していただきますようお願いを申

上げたいと思っております。

2つ目は、豊洲新市場移転への取り組みで、知事も毎回の記者会見でこの豊洲新市場の問題にもお触れになられておりますが、事業者の皆さんも大変お困りになられておりますので、ぜひとも方針を早目に定めていただき、市場業界の関係者の補償と支援もぜひともお願いしたいということでございます。

3点目は、防災都市づくりの推進でございます。私たちは従前、防災都市づくりに対しては、万全な体制をとということでお願いさせていただきました。直下型地震あるいは台風等の風水害、そうしたことが頻発する。こういう時代になりました。

したがって、東京都が定めました、特に木造住宅密集地域の解消の「木密不燃化10年プロジェクト」、あるいは緊急の集中豪雨対策の「東京都豪雨対策基本方針」の着実な実施をぜひお願いするとともに、緊急輸送道路沿道の耐震化でありますとか、あるいは知事がずっと取り組まれた無電柱化、空き家対策、そうしたことを通じて、東京の安心・安全の部分での、まさに防災上の安心・安全をぜひ進めていただきたいと思います。

4点目は、少子化高齢化対策でございます。少子化対策は、子供・子育てに対する支援、第3回定例会でも120億円を上回る補正を組んでいただいた。このことは、私たちも大変高く評価をさせていただいております。それと同時に、今、保育所の問題は、特に人材が足りないということが施設の問題とセットで論じられなければいけないし、施設をつくただけでは保育園は開園できないわけでありますから、人材育成も含めてぜひともお願いしたいと思っております。

また、産休とか育休とか、あるいは職場復帰を支援するという意味では、労働政策とも関係が非常に深いと思っておりますので、東京だけでできるのかはなかなか難しい課題があると思っておりますけれども、国にも要望をしていただきながら、この部分でも御尽力を賜りたいと思っております。

高齢化対策については、こちらマンパワーが不足しているということで、介護施設の充実あるいは地域包括ケアシステムの構築、そもそも寝たきりにならないための介護予防事業にもぜひ力を入れていただきたいと思います。

最後に5点目ですが、産業、景気経済の問題、あるいは環境に対する配慮、こうしたものをぜひ充実していただきたいと思います。国がGDP600兆円を目指すとっておりますので、今の国のGDPは大体500兆円と言われておりますから、これを2割アップするという事になれば、それは地方も含めて2割ということになれば、東京はもっとやらなければいけないのだろうという責任感があるのではないかと思います。その付加価値の合計でありますGDPを、東京で2割以上アップさせるためにはどうすればいいのか。このことは相当知恵を絞っていかねばいけないだろうと思っております。したがって、実効性のある予算編成をぜひお願いしたいと思います。

また、東京を世界で一番の都市にする。これが私たちのメインテーマでありまして、そのためには私たち住んでいる住民だけではなくて、外から来られる東京都外の方あるいは

外国の方、そういう方々にとっても東京はすばらしいまちだ。そして、快適性という意味での環境がすばらしい。こう言われるように、知事は環境大臣も経験されておりますので、環境対策もぜひ緑とか花とか、そういうことも含めてぜひともお願いしたいということでございます。

多岐にわたる項目があるのですが、特に平成29年度はこの5点の重点要望を中心にこれからお願いし、予算委員会でもいろいろな建設的な議論をさせていただければ大変ありがたいかなと思っております。

以上、御説明とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

まだ少しお時間もございますが、政調会長とか総務会長、ほかの皆様方、何かよろしゅうございましょうか。

どうぞ。

○小池知事 どうぞ。

○東京都議会自由民主党 総務会長の高橋信博でございます。

多摩と島しょの振興対策ということで、多摩のほうは26市3町1村、島部のほうは町村が9つございまして、そんな中で、自治体は自治体なのですけれども、何しろ財政は脆弱でございまして、それぞれの地域特性、市の、町の、村の特性がございまして、なかなか東京都全体の予算の中ではそういう細かいところはいかないわけですし、市町村総合交付金というものがございまして、それを充実していただければ、我が市、我が町、我が村でどうしてもこれをやりたいというところがたくさんございますので、その辺の市町村総合交付金は本当に使い勝手がいいということでございます。

それは市長会、町村会も要望がございまして、多摩のほうは人口で420万人を超えるわけです。面積は3分の2あるのですけれども、交通体系にしても南北がどうしても弱い。道路、鉄道です。相互乗り入れとか、連続立体化だとか、渋滞というか、そういうところをぜひとも、あるいは防災に関しましても、西多摩、南多摩、北多摩がありますが、西多摩のほうは大変交通事情、道路の事情にそれぞれ特性がございまして、立川を中心にやっているのですけれども、地産地消、東京ブランドはぜひとも、多摩、島しょはそういういいものがたくさんある。

ただし財源が脆弱であるという、そういう点で、ぜひともそちらの多摩、島しょの振興をぜひお願いしたいと思っております。

以上です。

○東京都議会自由民主党 多摩、島しょの話がありましたので、お礼をさせていただきたいと思っております。島焼酎特区の件では、本当に都知事を初め都の職員の皆様には大変お世話になりました。青ヶ島村、御蔵島村、檜原村、みんな感謝しております。引き続きこういった点も頑張っていっていただければと思っておりますので、今後と

もよろしくお願ひします。

以上でございます。

○東京都議会自由民主党 私から一つお願ひなのですが、4番目の重点の要望にも入って  
おりましたけれども、幹事長からもお話がありました少子高齢化対策なのです。人口問題  
は余り地方の自治体では議論されていなかったと思ひていまして、去年の国勢調査で、東  
京は人口が増加はしたのですが、やはり合計特殊出生率は全国で低い中で、どうすればこ  
の人口問題を東京が地方として取り組めるのかということは、真剣にこれから考へていか  
なければいけない大きなテーマだと思ひています。

というのは、合計特殊出生率は低いにもかかわらず、進学や就職で東京に人が流れてき  
て、そして出生率が低いということでございますから、しっかり抜本的に、総合的に、体  
系的に東京が全国の先駆けとして取り組んでいかなければいけないのだらうと思ひていま  
す。代表質問でも触れさせていただきましたけれども、これだけやれば済むという話でも  
ないわけでありますから、しっかりと東京で先進的に取り組んでいかなければいけない大  
きなこれからの課題だと思ひておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございます。

副会長、よろしいですか。せつかくの機会でございますから、どうぞ。まだ大丈夫です。  
どうぞ。

○東京都議会自由民主党 知事と無電柱化をぜひ一緒に進めていきたい。ここは都議会自  
民党とも全く同じ立場であると私も認識させていただいております。また、知事の国会議  
員時代の勉強会にも、我々議員は何人か参加させていただいております。ぜひとも東京  
都の無電柱、新しい思想、新しい発想で知事とともに取り組んでいきたいと思ひておりま  
すので、改めて要望させていただきます。

もう一点は子育てに関することなのですけれども、保育所はどんどんいろいろな整備が  
されていくのですが、私は子供を持つ親として、親と子が離れない政策をこれから考へて  
いくべき、親と子の時間を少しでもとれるような政策を小池知事と一緒に進めていきたく  
と思ひておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

よろしゅうございましょうか。

最後に知事から、お願ひいたします。

○小池知事 きょうは直接の御要望を承らせていただきました。全て一つずつ、大変重要  
なテーマであり、これこそオール東京で臨んでいかなければならないテーマだと思ひてお  
ります。

多摩も本当にすばらしい宝物がいっぱいございますし、島しょ地域も今回の「初垂れ（は  
なたれ）」を初めとする宝物がこれによって磨きがかかけられればと思ひます。

また、無電柱化は今回の新しい国の法律を都に落とし込んで、さらには区市町村へと落  
とし込むことによって、碁盤の目としての無電柱化が進むのではないか。そのための技術

革新によるコスト削減は不可欠でございますので、みんなで声を上げないといけないと思っておりますので、ぜひともよろしく願いいたします。

また、崎山先生からは人口の問題も、親と子の距離感といいたししょうか、距離を離さないでというお話がございました。出生率は統計上のいろいろな条件によって、どうしても東京は低くなります。独身女性も入ってくるわけでございます、そういったこともございますけれども、既に2025年にピークを打つという最新の予測が少し後ろになったとはいえ、これは明らかに避けられない状況であり、多分、人口問題からすれば、きのうもフォーラムで話がありましたが、この2年間で人口にとっての勝負どきになるというのが日本の置かれた立場で、特にこの首都東京における人口問題、それと裏腹というか、密接に関連する働き方の問題、これらのことを総合的に捉えていきたいと思っております。

いずれにしても、全てが総合的に必要な課題ばかりでございますので、ぜひとも御協力いただきまして、これら皆様方の御要望がかなうように最善の努力もしていきたい。また、皆様方の御協力をよろしく願い申し上げるところでございます。

普通はもっといい声なのですけれども、風邪を引きましてひどい声で、大丈夫ですか。

○東京都議会自由民主党 とんでもないです。ことしは長いですね。

○小池知事 そうですか。私はきのうからですから、これからが勝負です。

ありがとうございます。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

以上をもちまして、東京都議会自由民主党の皆様方の予算要望を終了とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

（東京都議会自由民主党 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

続きまして、都議会公明党の皆様でございます。お願いいたします。

（都議会公明党 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

どうぞ御着席をお願いいたします。

それでは、これより都議会公明党の皆様との平成29年度予算編成に関する要望を始めさせていただきます。

冒頭、知事からまずはお願いをいたします。

○小池知事 皆様、こんにちは。東村幹事長を初めとする公明党の皆様方をこのような形でお迎えするのは初めてでございますが、都民を代表する政党の各会派の皆様方から直接御要望、御提案を伺う。そして、そのことを都民の皆様方にネットを通じて直接ごらんいただく、見える化を進める。これこそが私がこれからも皆様方とともに進めていきたい東京大改革の一つのあらわれである。このように御理解を賜ればと思います。

本日、大変お忙しいところ、このような形で皆様方の御要望、予算に対する御要望、こ

れまでも既に実行プランに対して、待機児童対策に対して、それぞれの都度、皆様方の御要望も受けてまいりました。それらのことをできるだけ生かす努力もしてまいったつもりでございますが、私にとりましては初めての予算編成でございます。ぜひ皆様方の御意見をしっかりとお聞きいたしまして、それらを生かしていきたい。

特に皆様方は生活、現場の声、実情を踏まえた声を受けておられる、まさしく都民ファーストを実践しておられる皆様方でございます。私の進めていきたい3つのシティー、安全なまち、みんなが生き生きできるまち、環境、金融に先進的なまち。これらのことを実行していくためにも、皆様方からの御要望は大変な有効なものだということ考えているところでございます。

本日は、大変限られた時間ではございますけれども、直接皆様方の声に私どもも真摯に耳を傾けたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。まことにありがとうございます。

○司会（武市財務局長） 幹事長、お願いいたします。

○都議会公明党 どうもこんにちは。きょうは本当に、貴重な時間をありがとうございます。

冒頭、我がほうの出席者を御紹介させていただきたいと思います。最初に、団長の中島義雄でございます。

政調会長の橋正剛でございます。

副団長の長橋桂一でございます。

隣が、副幹事長の上野和彦でございます。

そして、副政調会長の大松あきらでございます。

こちらが副幹事長の野上純子です。

同じく副幹事長の高倉良生でございます。

以上のメンバーで要請をさせていただきたいと思います。

冒頭、私から、特に力を入れている2点だけ話をさせていただいて、それ以外の重点項目は橋政調会長から話をさせていただきたいと思います。

一つは、2020の実行プランのときも申し上げさせていただきました。私立学校に通う生徒の保護者に対する給付型特別奨学金の拡充でございます。現在、910万円という所得の基準で、国が就学支援金を出してくれています。東京都も一部、横出しで特別奨学金を出していただいておりますが、私立学校の場合、平均授業料が平成27年度ですけれども、44万円という数字が出ております。なかなかまだまだそこまで足りないという現状がございます。

ぜひとも現場の保護者の皆さんからは、行きたい学校に子供が行けるように、所得の格差で受けるべき教育が受けられないのは、子供たちがかわいそうだという声がかなり出ておりますので、公明党は何とかこの差額分を埋めて、少なくとも910万円というのは子供2人の世帯に児童手当が支給される上限でございますので、ここまではせめて何とか、本心に安心して、私立学校でも都立でも通える、特に東京は6割が私立学校でございますか

ら、ここをお願いしたいと思っています。

確かに私立中高協会からは、どちらかという学校に対する補助に力を入れてくださいという声が出ているのも存じ上げています。今回も、こういった保護者負担の軽減というものには、8億円ぐらいしか要望が出ていないというのもよくわかっています。

ただ、これは128億円かかりますけれども、どうしても今まで学校側にシフトが置かれていて、生活をしていく、教育を本当に受けていく保護者の側に立った支援がどうも薄かったのではないかと思いますので、ぜひともここに力を入れていただきたい。このように考えております。

2点目は、細かいことだと言われるかもしれませんが、小中学校のトイレの洋式化の問題なのです。御存じのように、今、洋式トイレの普及率は9割を超えました。そういう中で、学校現場を見ますと小中学校、特に区部は57%まで行っていますが、三多摩の市町村部は49%という実態です。

中には、和式しかないために入学前に通知が出てきて、小学校1年生の入学前に和式トイレで訓練をしてから小学校に上げてくださいという前時代的なことをまだ通知を出してやっているという現状もありますので、特におくれている三多摩は、クーラー、冷房化のときもなかなか予算がないとって進まなかったのですが、東京都が今まで出さないとやってきた予算を出してくれたことによって、今、100%まで普及しました。

こういった災害時のことも念頭に置いて、ぜひとも都が支援することによって、国、都、市が連携して普及がどんどん進んでいくと思いますので、ここにぜひとも力を入れていただきたい。生活者の視点ということで、まずは要望を2点、お願いしたいと思います。

それ以外については、政調会長から順を追って説明いたします。

○都議会公明党 政調会長の橘でございます。どうかよろしくお願いいたします。

座って説明させていただきます。

まず、私たちの予算編成に対する要望書は、非常に項目が多くございますので、重点項目として皆様方のお手元にお配りさせていただきましたペーパーにまとめさせていただきましたので、よろしく願いいたします。

最初に、政策企画局関係で申し上げます。いわゆる都市外交、都市交流でございますけれども、この推進につきましては、オリンピック・パラリンピック大会の成功に向けまして、姉妹都市との具体的な交流をもう少し広げていただきたいと思います。また、東京には各国の在京大使館等がたくさんございますので、さらに連携を強化するということが都市交流、都市外交が進むかと思っております。それが最終的にはオリンピック・パラリンピック大会の成功に結びつくかと思っておりますので、その辺のことを念頭に推し進めていただければと思います。

次に、総務局関係でございますが、行政改革を推進するという内容の関係で、指定管理者の選定・更新に際しまして、応札の条件に「社会保険労務士による労働条件審査」を導入していただきたい。これも大事かと思っております。

多摩地域の自立化と島しょ地域活性化のための諸施策を全庁的に推進するという項目の中では、特に小笠原諸島の実態を踏まえまして、航空路の開設を早急にいただきたい。2点目としましては、多摩都市モノレールの早期延伸。これは大変に要望が強くございますので、これは進めていただきたいと思っております。

総合防災対策関係でございますが、帰宅困難者対策として我が党は非常にこれに力を入れてまいりましたけれども、この中の一環として、民間企業等に備蓄をする場合に、それを補助する都の制度がございますが、平成28年度で計画的には終わることになっております。しかし、これからまだ需要がたくさんあると思われまますので、帰宅困難者対策に企業も協力をいただいてやるからには、この補助制度を来年度以降も継続していただければと思っております。

都民から非常に声も多いのですが、ペットの同行避難、一緒に避難する場合に、屋外での暫定の飼育を可能にするための折り畳み式の飼育ケージ・ペットフード、こういったものを備蓄の対象にいただければと思っております。

次に、生活文化局関係でございますけれども、私学の助成については、先ほど東村から説明いたしましたので、割愛させていただきます。

オリンピック・パラリンピック準備局関係でございますけれども、2020年の東京大会に向けまして、総経費がかなり高額になるということもございます。2兆円以下にさらに抑制するために、支出のチェックのスキームを確立して、引き続き経費抑制の改革を推進していただきたいと思っております。もう一点ですが、組織委員会の経費の透明化対策も非常に大事かと思えます。透明化につきましては、支出内容を月ごとにインターネットで公表するなど、そういった自主的な透明化策を提案していただければと思っております。

都市整備局関係に移りますけれども、この中では総合交通対策、この辺が非常に重要になってくると私たちは認識しております。1点目ですが、この総合交通対策のための駅のホームドア。これはやはり、予算の関係もあるでしょうけれども、強力に推進していかなければならないと思えます。

鉄道事業者の取り組みを促すためにも、都の補助金のアップを推進していかなければ進まないと思えますので、この辺の点については、予算編成の中で重要視していただければと思っております。

次に、住宅政策の関係でございます。私たちは既に訴えておりますけれども、住宅局を復活させるということ。これを基本にしまして、まずは東京の住宅対策。新たな高齢者が非常に多くなっていることも踏まえまして、空き家対策も含めまして、また、福祉との連動も含めまして、少子高齢時代を踏まえた住宅政策をしっかりと確立していただきたいと思っております。そのための予算編成に配慮をいただきたいと思っております。

次に移りますけれども、都営住宅の関係では、現在、入居した方については既に風呂釜等についてはついておりますが、かなり以前に入居した方については風呂がついておりませんでし

た。自分で買って設置した。現在、これが故障したりする場合は、全部自分で負担しなければならないということになっておりますけれども、故障した場合は、古くて自分で購入した場合でも補助の対象にさせていただきたいと思っております。

環境局関係でございますけれども、水素社会を推進していくために、ガソリンスタンドに急速充電器、水素ステーション、これを整備するための支援を東京都としても実施させていただきたいと思っておりますし、国に対しても水素ステーションの機能、これはさまざまな規制がございますけれども、この規制緩和について国のほうにも要望させていただきたいと思っております。

福祉保健局関係につきましては、平成26年11月18日に、今、手元に少し持ってまいりましたけれども、私どもは提言を行っております。これはプロジェクトをつくりまして、さまざまな角度からたくさんの項目で提言をしておりますので、これを再度、きょうは割愛しますが、実行に移させていただきたいと思っております。

「2 母と子の生活と健康をまもる」という項目については、同じく平成26年9月1日に私どもの少子社会対策プロジェクトチームが、安心して産み育てられる東京にしていきたいという提言をまとめております。きょうもこれをお持ちしておりますので、確実に推進させていただきたいと思っております。

保育対策に関係してですけれども、保育人材の待遇改善はどうしても進めていただかなければ、待機児童対策としては欠けるが出てくると思っておりますので、保育人材の待遇改善はしっかりと取り組んでいただきたいと思います。当然、国に加算の増額を求めるということも大事でありますけれども、都においてもできる限りキャリアアップの取り組みとか、そういったことは可能なわけありますから、都としても全力で取り組んでいただきたいと思いますと思っております。

次の項目でございますが、認証保育所の利用者負担の軽減策で、これは国に対して認可移行や認可と同等の国の補助の実施を求めていただきたいと思いますと思っております。そして、財政力によりまして補助金の多寡がございます。したがって、これで保育料の差が出てきまして、これがまた不公平を生んでおりますので、平均的になるように、都としても補助金制度を充実させていただきたいと思っております。

今、若いお母さん方に大変人気と申しますか、興味を引いているのが「ゆりかご・とうきょう事業」で、いわゆる東京版ネウボラでございます。これは非常に安心できるシステムだということで、評価がすごく高いものですから、これの拡充を図っていただきたいと思います。

保健医療関係でございますけれども、地域医療構想については、一つは医療資源の有効的な活用、医療提供者の意見が反映されるような地域調整会議の運営、継続的なきちんとした基金を初めとした支援を行う。そういった面で、安定した地域医療を提供できるような体制にさせていただきたいと思っております。

産業労働局関係でございますけれども、一つは、中小企業の支援でございますが、中小

企業者が民事再生法を活用できるように支援策を検討していただきたい。実際は、中小企業者も民事再生法は適用されるのですが、非常に事務手続が大変でございまして、膨大な資料を用意しなければいけないこともございまして、負担が大き過ぎるのです。こういうことについても、支援策を検討していただきたいと思います。

次は農林水産業の振興の項目でございますけれども、都市農業の観点から「農ある風景」のために、東京全体にこの農というものを、もう一度都市農業として認識していただきたい。そういった観点から、学校給食などで東京産の農産物を農地のないところにも提供していくという工夫も必要かなと思います。学童農園であるとか、成人者向け体験農園であるとか、道の駅などに直売所を整備するといったことをあわせて、しっかり東京の農業の振興を支えていっていただきたいと思っております。

最後に、教育庁関係でございまして、トイレの洋式化につきましては、先ほど幹事長から説明をさせていただいたとおりでございます。その他の項目として、いじめや不登校、児童・生徒の問題行動の未然防止、こういった観点からスクールカウンセラーのもう一段の活用を進めていただきたい。あわせて、専門家の集団でございましてアドバイザースタッフの制度と相互連携して、児童・生徒の課題解決に努めていっていただきたいと思っております。

大まかに私から説明させていただきました。私からは以上でございます。

○都議会公明党 団長から一言。

○都議会公明党 一つは、市町村の総合交付金でございます。これが多摩の市町村のかなり自由な財源になっていますから、ぜひこれは十分な手当てをお願いしたい。多摩格差是正の第一歩です。

もう一点だけ、住宅局の復活を我々はずっと主張しています。なぜかといいますと、東京都の本来的使命は、保健福祉医療を初め、さまざまな行政サービスをいかに安定的に継続的に提供するかが最大の使命なのです。しかし、全ての行政サービスは居住の安定があって初めて意味がある。ですから、改めて今、地域を回っていましたよね。

ひとり暮らしの高齢者とか若い世代とか、本当に住宅に恵まれない人はたくさんおりますので、全ての行政サービスを本当に基盤から支える住宅政策を改めて、空き家対策も含めて、東京都として再構築していただきたい。そのためには、局を復活させるべきだというのが年来の我々の主張ですので、ぜひお考えをいただきたいと思っております。よろしく願います。

○司会（武市財務局長） 貴重な御意見、御要望をどうもありがとうございました。

最後に、知事からお願いいたします。

○小池知事 ありがとうございます。

幹事長から、まずは教育現場、人、お金の話をいただきました。詳しくこの冊子化されました都議会公明党の皆様方からの御要望を、一つ一つ御説明を賜りました。この御要望については、年明け早々から知事査定を始めてまいりますので、一つ一つそこで判断させ

ていただこうと考えております。

スケジュール的には、1月の下旬には予算案を発表することとなりますけれども、皆様方には事前に御説明させていただくように、余裕を持って、また、コミュニケーションをよくとっていきたいと思っております。

いよいよ2月の中旬からは第1回の定例会でございますが、これまで2回の定例会を経験させていただきました。いろいろと先生方の御協力で、無事何とか2回を経験させていただいたわけでございますけれども、これからも都議会公明党の皆様方から、いろいろと議会におけるさまざまなポイントなどを教えていただき、2020実行プランのときもとても具体的な御提案をいただきました。早速どれの実現がすぐできるのか、中期的にどうなのか、今、精査もしているところでございますので、予算案に尽きましても、そのような呼吸を合わせながらしっかりと進めてまいりたいと思っております。

まさしく都民ファーストの予算をつくり上げていきたいと思っておりますので、どうぞ今後ともよろしくお願い申し上げます。

本日は、ありがとうございました。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

以上をもちまして、終了とさせていただきます。本日は、お忙しいところどうもありがとうございました。

（都議会公明党 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

続きまして、日本共産党東京都議会議員団の皆様でございます。どうぞお入りをお願いいたします。

（日本共産党東京都議会議員団 入室）

○司会（武市財務局長） 日本共産党東京都議会議員団の皆様でございます。

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。どうぞ御着席をお願いいたします。

よろしゅうございますか。これより日本共産党東京都議会議員団の皆様からの、平成29年度予算編成に関する要望を始めさせていただきます。

初めに、知事から一言申し上げさせていただきます。

○小池知事 皆様、こんにちは。日本共産党東京都議会議員団の大山とも子幹事長を初めとする全員の皆様、オリパラのほうの委員の皆様は別といたしましても、これだけおそろいいただきまして、この要望の会にお越しいただきましてまことにありがとうございます。

都政の運営につきましても、日ごろから御協力を賜っておりますことを改めて御礼を申し上げます。

御承知のように、私は東京大改革という大きな旗を掲げてこの都庁にやってまいり、都知事を始めて5カ月になろうとしているわけでございますけれども、大事な予算編成とい

う時期を迎えることになりました。

今回、このような形で初めて知事が60を超える団体の皆様方から直接御要望を聞くということは、私は地方自治にとって当然のことなのかなと。そして、それも皆さんにネットで中継をさせていただいて、見える化を進めるということが重要なのだと。このように思っているところでございます。

都議会各会派からの予算に対する御要望も非公開でありましたのを、今回、初めてこのような形で公開しての御要望を聞く会となっているわけでございます。大変短い時間で、まことに恐縮ではございますけれども、せんだつても御要望を、2020の実行プラン等々、その都度皆様方の御意見を伺ってまいりました。オリンピック・パラリンピック、豊洲問題、待機児童問題、そのたびに御要望をいただいております。

きょうは限られた時間ではございますけれども、私にとりましては初めての予算編成となるわけでございますので、皆様方のお声をしっかりとお聞きしてまいりたく、この時間を有効に御活用いただければと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○司会（武市財務局長） 幹事長、お願いいたします。

○日本共産党東京都議会議員団 予算要望をありがとうございます。

それでは、日本共産党都議団からの予算要望をさせていただきたいと思います。本体のとても厚いほうの表紙を1枚あけていただきますと、「2017年度東京都予算編成に対する要望について」というものがあります。基本的な私どものスタンスを書いてあります。都民の皆さんの暮らしは本当に厳しくなっています。私たち日本共産党都議団は、8月以来多くの団体の皆さん、数えましたら88団体の皆さんと予算懇談をしたり、都民の皆さんから御要望をお聞きしてまいりました。

この取り組みの中で、都への要望として共通して求められていたのは、貧しい社会保障制度、労働法制、中小企業支援策のもとで苦しんでおられる都民の皆さんの暮らし、福祉、営業を守るために、都が全力を挙げてほしいということでした。

小池知事となって初めての来年度予算編成となりますけれども、都民ファーストを貫く立場から、暮らし、福祉、教育、雇用、中小企業振興、防災対策などを最優先で進めていただくことが求められています。一方、都市基盤については、大型開発を抑制して、既存のインフラの維持管理や長寿命化に力を注ぐことが避けて通れない重要課題となっていると考えています。

以上の立場から、本体のほうは2,420項目でございます。よろしくお願い申し上げたいと思います。

重点的な要望については、清水政調委員長からお話をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

○日本共産党東京都議会議員団 政調委員長の清水ひで子です。よろしくお願いいたします。

私からは、重点要望とそれに伴っての資料をそこにお渡ししてありますので、順次おめくりいただきたいと思ひます。重点要望は16分野66項目から成っております。

まず、1番の築地市場移転の抜本的な再検討、2番の五輪費用の削減と透明化、3番の入札契約制度の改善、4番目の保育園の増設と質の充実、待機児解消。この問題は、この間、定例会の本会議の代表質問や一般質問で取り上げた問題です。これらについては、知事から前向きな御答弁もいただいておりますので、確実に実施をしていただくようお願いしたいと思ひます。

資料の1番を見ていただいておりますけれども、これはかつて東京都が3カ年の待機児解消の目標を、認可保育園を中心にしてつくった資料です。ぜひ認可保育園の増設の計画を実行プランの中に取り入れていただきたいと思ひます。

次に、2ページ一番下、13の高齢者福祉の充実です。高齢者福祉の拡充について、シルバーパスの拡充があります。資料の2枚目を見ていただきたいと思ひます。シルバーパスは、東京都シルバーパス条例でシルバーパスの対象交通機関が決められております。下に書いてあるようです。条例施行規則で費用負担が書かれております。非課税者は1,000円、住民税課税者は2万510円と、この差が非常に大きくなっております。まず、私たちの要望は、この対象交通機関の拡大を行ってほしい。とりわけ多摩都市モノレールやゆりかもめなど、路線の拡大を今、多くの都民が望んでおります。

資料の3ページを見ていただければわかりますように、1999年度には7割以上がシルバーパスを利用しておりました。ところが、2014年度には47%。これは2万510円と負担が大きくなったことによって、利用率が非常に下がっているということで、3,000円パス、5,000円パスなど、中間の費用負担の設定をお願いしたいと思ひます。免許を返納した高齢の運転者の利用と社会参加を保障するためにも、都民から強く要望されているものです。

3ページの14番は、特別養護老人ホーム、地域密着型サービスなどの整備費や運営費への補助を拡充し、大幅に増設することという項目ですけれども、特別養護老人ホームの待機者は約4万人と言われております。切実な要求となっております。

資料4ページは、高齢者の施設整備に関する福祉保健局の予算見積もり概要になっております。資料4ページの増減を見ますと、ほとんどが減額になっております。これについて、ぜひ来年度は増額へと進めていただきたいと思ひます。

次に、重点要望の3ページの16番で、都営住宅の増設です。2000年以降、新規建設は全く行われておりません。倍率は、世帯での倍率は27倍。1,400戸余りの募集に4万人以上が応募しております。単身では58倍。200戸余りに1万2,000人が応募して、宝くじに当たるように難しいのが現状でありまして、当たらない方は極めて困難な生活を余儀なくされております。低層を高層に建てかえたところなどは、土地が生み出されています。建設の条件があり、ぜひ新規増設して建設して、新規募集をしていただきたいと思っております。

次に、重点要望の5ページ、32番は障害者差別禁止条例の制定で、障害者の差別をなくするための条例をつくっていただきたいということです。当事者の方々からは、国の法律で

は何が差別に当たるのか定義が明確ではないという声が上がっています。当事者の参加を保障した効果的な条例制定をお願いしたいと思います。

次に、重点要望の6ページの40番は商店街への支援の拡充です。「新・元気を出せ！商店街事業」の拡充を強くお願いしたいと思います。地域の商店街や零細企業に対する活性化対策に大きな役割を果たしています。商店街には、地域のコミュニティーの核という役割が期待されていまして、商店街のイベントは、地域のつながりを生み出すきっかけにもなっています。高齢者がふえる中、買い物弱者支援などをもっと広げたらと思っています。予算の増額や使い勝手の改善などを行っていただきたいと思います。

次に、重点要望の7ページの43番をごらんください。東京都独自の給付型奨学金の創設をお願いしたいと思います。国公立の高校生や私立高校生への都独自の給付型奨学金制度を早急に創設していただきたいと思います。現在の国の制度は、生活保護の6割程度の所得の家庭でも対象外になってしまったとの相談が寄せられています。高校生の生活実態に合わせて所得制限を高く設定し、十分な金額の支給をお願いしたいと思います。

次に、8ページの48番、私学助成の拡充です。御承知のように、私立学校は、建学精神、教育方針に基づき特色ある教育を実施し、東京の公教育の大きな部分を担っています。教育を安定的に高校生などに保障するために、経常費2分の1補助を初めとする私学助成の堅持・拡充を要望したいと思います。

次に、同じ8ページの51番、52番は防災関係になります。知事は、阪神大震災を経験しておられるということで、ぜひ2つの項目にあります耐震化の促進、感震ブレーカーの促進をお願いしたいと思います。

次に、10ページでは、多摩格差の解消の問題が触れられています。62番から65番までが多摩格差の解消ということで、全体的に述べさせていただきます。特に多摩地域での医療問題の不足が深刻になっています。子供の医療費助成の所得制限や通院費の負担をなくす問題、小児医療、新生児、未熟児集中治療ベッドの不足。さらに、5ページの27にも掲げてありましたけれども、医師不足もあります。こうした問題で、ぜひ一歩でも二歩でも前に進めていただければと願っております。

私からは以上でございます。よろしくお願いたします。

○日本共産党東京都議会議員団 それでは、具体的に個別に発言させていただきたいと思います。

尾崎さんから、シルバーパスですね。

○日本共産党東京都議会議員団 お世話になります。私からは、重点要望の2ページで、13番目にシルバーパスの拡充という項目があるのですが、特に多摩都市モノレールとゆりかもめでシルバーパスを使えるようにしていただきたいということで、現状などもお話しさせていただきたいと思います。

私も多摩都市モノレールを使うのですけれども、多摩都市モノレールは初乗りが210円なのです。大江戸線も以前高いという声もあったのですが、それでも初乗りは180円なのです。

210円の初乗りは非常に高く、地元の年金で暮らしていらっしゃる方たちからは、乗りたいけれども乗れないのだという声があるのです。

一方で、子供たちから、もう車の運転をやめてほしいと。最近が高齢者の事故も多いから、事故を起こしてはならないから、免許を返しなさいと言われて、車を手放すのです。そうしますと、交通はバスか西武鉄道かモノレールなのです。モノレールが近い人でも、やはり乗れないというのです。せめてシルバーパスがあれば利用できるのにとということなのです。

それだけではなくて、多摩都市モノレールが走るようになりますと、今まで走っていた路線バスが路線の見直しがされて、モノレールがあるからということで本数も路線も減らされているのです。そうすると、外に行ってお友達と会いたいと思っても、遠くの都心の病院に行きたいと思っても、なかなか行かれないという声も出ています。ですから、せめてモノレールにシルバーパスを使えるようお願いしたいと思います。

どうぞよろしくお願いします。

○日本共産党東京都議会議員団 それでは、曾根さんから都営住宅です。

○日本共産党東京都議会議員団 北区の曾根はじめと申します。

これは東京都の予算委員会での資料なのですが、まだ先ほど説明はしていない資料の5番と6番に、この20年近い期間の都営住宅の新規建設及び建てかえの建設戸数が出ているのですけれども、ごらんのとおり平成12年、つまり2000年から以降、新規には一戸も建てていないのです。しかし、建てかえの戸数はかなりやっているわけです。今、昭和40年代がほぼ終わりにかかっているんで、建てかえの戸数から新規の建設にシフトしていけるチャンスだと私は思っています。同じ費用をかけるのであれば、今、26万戸ありますけれども、特に若い世代の住宅、公的な住宅が本当にないという状況に承えていただいて、新規建設はどこかに踏み出さないといけない課題だと思いますので、ぜひ小池知事に決断をしていただきたい。

その後、⑥の資料もこの倍率の高さを出しているのですが、要するに、倍率は高どまりをしておりますので、今まで申し込み続けている高齢者の方はもちろんなのですが、若い人たちがいなくなってくると団地自体が物すごい超高齢化になってしまいますので、ソーシャルミックスという観点からも新しい団地をつくり、もしくは新しい都営住宅を確保して、いろいろな世代の人が入りやすくすることが必要かと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○日本共産党東京都議会議員団 時間もありますので、もう一人だけお願いします。

○日本共産党東京都議会議員団 よろしくお願いします。

一言だけ、知事はパラリンピックの開催に向けて、障害者スポーツを普及するというところで大変頑張っていただいていると思いますが、障害者が大好きなプールがなかなか地域で使えるものがございません。特別支援学校を地域の障害者の拠点にするということを東京都は始めていますが、プールはまだ使われていないのです。

ぜひ障害児の学校である特別支援学校を建てかえるときとか改修するときに、プールを温水化していただいて、地域の障害者の方にも使っていただけるようにしていただけないか。そうしますと、体温調整が難しくてなかなかプールに入れない障害者のお子さんも、学校に通っているお子さんもプールに入る回数がふえる。一夏で2回しかプールに入れなかったというお話もお母さんたちから聞いておりますので、子供たちのためにも地域の障害者の方のためにも、今、あるプールをちょっと改修していただければ、大変有効に活用できると思いますので、ぜひ検討していただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

○日本共産党東京都議会議員団 それでは、知事、お願いします。

○司会（武市財務局長） 知事、お願いいたします。

○小池知事 このまま2,000項目伺うのかと思いましたが、さまざまな分野で、生活者の目線での御要望を承らせていただきました。年明け早々から知事査定を始めることとなりますが、一つ一つそこで判断をさせていただきます。1月の下旬、予算案の発表という運びではございますけれども、各会派の皆様方には事前に御説明できるようにさせていただきます。

また、2月中旬から、いよいよ第1定例会が始まるわけでございますけれども、皆様方とは建設的な議論を通じて、まだまだ私も都議会の本会議などはなれておりません。そういった意味で、これからも皆様方からいろいろと御指導、御支援をいただければと思っていますところであります。

予算は、私が目指しております、まさしく都民ファーストの予算にしていきたい。このように思っております。短い時間ではございますが、本日はまことにありがとうございます。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

以上をもちまして、終了とさせていただきます。お忙しいところどうもありがとうございました。

（日本共産党東京都議会議員団 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

続きまして、都議会民進党の皆様でございます。

（都議会民進党 入室）

○司会（武市財務局長） 都議会民進党の皆様でございます。よろしく願いいたします。

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） ありがとうございます。それでは、御着席をお願いいたします。

これより、都議会民進党の皆様からの、平成29年度予算編成に関する要望を始めさせていただきます。

まず、知事から一言申し上げます。

○小池知事 改めまして、皆様、こんにちは。

本日は、尾崎幹事長を初めとする都議会民進党の皆様方から、平成29年度の予算編成に当たっての御要望を直接お伺いするという機会でございます。

以前から見える化を訴えてまいった私でございますけれども、これまでも政党の御要望を承っていたということですが、これは公開させていただいて、直接皆様方のお考えも都民の皆様にご覧いただき、私どもの受けとめ方も伝えていくというような、これも東京大改革の一環とお受けとめいただければ幸いです。

きのうまで6日間で60団体、区市町村などの代表の方々を初めといたしまして、直接予算の御要望、せつかくの機会だからといって、いろいろと現場の声もお聞かせいただきました。こういう中で、ぜひ都民ファーストの予算案を編成させていただきたいと思っております。その意味で都議会民進党の皆様方からの御要望をしっかりと生かしていきたい。このように考えているところでございます。

また、さきの第4定例会で情報公開、子育て支援、働き方改革、環境、豊洲市場、オリンピックなど、既に都政の重要課題についても皆様方から直接御要望なども承ってきたわけでございます。

今度はそのお考えを皆様方とともに数値であらわす、つまり予算化していくという作業を進めさせていただきたいと思っております。皆様方は「自由・共生・未来への責任」の理念を掲げておられますけれども、これはまさしく私が標榜いたしております3つのシティーづくり、安全なまち、生き生きと輝けるまち、環境、金融など先進都市づくりと、これらに一致するものだと思いますので、きょうはこの時間、大変短くて恐縮ではございますが、直接の機会とさせていただきます。

どうぞよろしく申し上げます。

○司会（武市財務局長） ありがとうございます。

それでは、幹事長、よろしくお願いたします。

○都議会民進党 きょうは大変お忙しい中、私たち都議会民進党の予算要望ということでお時間をとっていただきまして、まことにありがとうございます。

本当に小池知事におかれましては、60団体をお一人で受けられているということで、皆さんでやられているのですけれども、私どもも毎年こうした形で予算要望をさせていただきましたが、今回、小池知事の見える都政化という取り組みの中で、こういうフルオープンの中でやらせていただくことは、非常に画期的な取り組みだと思っておりますし、心から敬意を表するものでございます。

私たちが9月ぐらいから、毎年関係諸団体の方々、100団体を超える方々からさまざまな要望をいただいて、それを一つにまとめて、毎年こうやって予算要望をさせていただいているのですが、我々議会側が受けた視点と、知事、行政側の受けた視点とは、もちろん違うのは当たり前のことでありますが、それはいいコミュニケーションで精査をしていただいて、すばらしい予算をつくっていただきますように心からお願いを申し上げる次第でござ

ざいます。

時間がないので早速ですけれども、予算要望は800余りあるのですが、全部やっていくと時間がないので、大体10点にまとめてお話をさせていただきたいと思います。

1 ページ目をごらんいただきまして、情報公開と都政の透明化であります。「一 情報公開と都政の透明化について」という部分であります。情報公開の推進に当たりましては、一体いつ誰が何を決めて何をしたのか、記録を残されていることは非常に重要なことだと思っております。公の文書については、将来を含めた都民共有のものであるという原則をしっかりとルール化して明確化をしていただきたい。これは先日の代表質問のほうでもお話を申し上げましたが、公文書管理条例の早期制定を求めるものであります。

続きまして「二 行財政改革について」であります。事業評価により都政の無駄を排除するというのももちろんであります。将来の成長に向けた戦略をしっかりと描いて、必要な投資に十分な予算を振り分けなくてはならないと思っております。その戦略に基づく新産業の育成、環境・エネルギー施策の充実、子育て・福祉の充実などに集中して予算を投じるメリハリをつけていただくように求めるものであります。

続きまして「三 監理団体改革、公営企業について」であります。この監理団体改革を一層進めるために、経営目標の設定と達成度評価のプロセスに外部の目を入れることを求めるものであります。

続きまして4 ページであります。第2章の「一 働き方改革の推進について」につきましても、私たちはこれまで都議会民進党として、本会議や予算委員会の場でもたびたび取り上げてまいりました。現在、労働者の3分の1以上が非正規雇用という状況でありまして、これは上昇傾向が続いております。これはやはりちょっと不完全な状況だなというのは本当に思っているところであります。所得も正規雇用の3分の1くらいにしかならないわけでありまして。

こうした中で、2022年までに不本意に、もちろん自分の本意で非正規で働いている方はいらっしゃるのですけれども、本当は正規社員になりたいのに、残念ながらさまざまな境遇の中で非正規雇用をしていらっしゃる方々を半減させていただきたいという、この目標達成に向けて、正規雇用の転換促進、助成事業の拡充、正規雇用化対策に積極的に取り組んでいただきたいとお願いを申し上げます。

2つ目に、同一価値労働同一賃金の実現に向けて、非正規労働者の処遇改善を図る企業を支援していただきたい。

3つ目に、長時間労働の抑制が重要であると思っております。取り組みを進める企業への支援、働き方改革に積極的に取り組んでいただきたいと求めるものでございます。

続きまして、ちょっと飛びますけれども、10ページで、第3章の子供施策についてです。ここの「一 保育サービスの充実について」の面では、都内の潜在的ニーズも含めた待機児童をしっかりと把握して、待機児童ゼロに向けた抜本的な取り組みを進めることが重要だと思っております。これはよく言われることではありますが、保育所をつくれればそれだけ

眠っていた需要が掘り起こされる。そのため、待機児童を上回ってしまう定員の保育所の整備をしても、待機児童はなかなか解消されず、イタチごっこのような状況が続いております。

これについては、本当の保育需要はどれだけなのかを明らかにして、どうすればこの待機問題を解消することができるのかを、女性の活躍推進というもので、これからもっと需要が喚起される、一方では、少子化、人口減少という状況もある中で、そういった背景を総合的に勘案して対策を練り上げる必要があるのではないかと私たちは考えております。

当面する重要な取り組みとして、私たちは人材確保が極めて重要であると考えておりまして、これは国の事業に独自にこれを上乘せしていただいて、民間保育所の保育士の給与改善に取り組んでいただきたいと要望するものでございます。キャリアアップ支援に関しては、私どもも以前から取り上げさせていただいておりますが、今、保育士の給料はかなり低い状況がありますので、このキャリアアップ支援をさらに充実していただきたい。あわせて、キャリアアップのための補助金が保育士の皆さんの給与改善に果たして結びついているのかどうか、しっかりと把握することを同時に求めていくものでございます。

以下、具体策を重点項目として要望をいたしたいと思っております。

東京都の認証保育所、これは国の制度として認めていただきたい。引き続き国に働きかけていただきたいと思っております。私も東京都の認証保育所は本当にすばらしい制度だと思っております。認可保育園に比べるとどうしても少しコストが高くなってしまっていて、一般の方たちは入る保育園のお金によって、なかなか入らざるを得ないような状況がありますので、私は認証保育所をさらに拡充していただくために、国の制度としても認めていただきたい、国に働きかけ続けていただきたいと思っております。

次に、12ページの「二 子どもの貧困対策・格差解消方策について」ですが、全ての子供たちが生まれ育った環境に左右されずに、安心して教育を受けられるように、高校生を対象とした独自の給付型奨学金を創設していただきたい。これは既に小池知事も実施するということを表明されておりますけれども、この間の私たちの重点要望でございましたので、ぜひとも早期の制度化をお願いいたします。

また、東京都では、先駆的な取り組みを行っていただいておりますので、これを引き続き実施していただくことに加えて、格差解消を進めて、全ての子供が将来の夢を描ける状況をつくっていくためには、現在の基準よりももう少し対象を拡大していく。支援をしていただきたいと考えますので、受験生チャレンジ支援貸付事業の対象を拡大していただきたい。もう一つは、子供の居場所創設事業で、都内全域で実施されるように取り組んでいただきたいと、特に重点としてお願いをするものでございます。

次に、13ページは「三 子育て支援について」ですが、これは小池知事も御存じのとおり、周囲になかなか相談相手がいない。必要な情報が得にくい。妊娠、出産、子育てについて不安を抱える妊婦や保護者がふえていることが課題になって久しいわけでございます。全ての新生児の家庭を孤立させないで、必要に応じた支援・サービスを提供することがで

きるようにしていかなくてはならないと思っております。

そこで、この「ゆりかご・とうきょう事業」を引き続き実施していただきたい。全ての区市町村で事業が実施され、全ての子供たちに支援が提供されるように、事業主体は区市町村ではありますが、東京都としても推進していただきたいと思っております。

続きましては「九 私立学校の振興について」であります。私立幼稚園、私立学校における教育内容の向上、保護者の負担軽減、学校経営の健全化を図るために、私立学校経常費補助のさらなる拡充をお願いいたします。私学振興は、毎年私たちも復活要望の対象項目でしたので、他の項目も含めてぜひとも予算化をお願いしたいと思っております。

次は少々飛びますが、44ページを開いていただきまして、第6章の環境・快適都市についてであります。住宅の省エネ基準改定に対応して住宅の環境性能を向上させるために、これは既存住宅への高断熱窓の導入促進、断熱改修促進、加えて新築を含めたエコハウスの普及促進などに取り組んでいただきたいと思っております。

再生可能エネルギーの導入拡大のために、地産地消型の再生可能エネルギー導入拡大事業を実施するとともに自立型ソーラースタンドの普及、既存住宅の再エネ、省エネ促進事業、地中熱利用の普及促進、都民事業者の再エネ電力の利用を促す仕組みづくりなどに積極的に取り組んでいただきたいと要望いたします。

続きまして、57ページでございますが、都市基盤のハードに関する要望でございます。一つは鉄道駅へのホームドアの設置の促進をしていただきたい。そのためには、ホームドアの整備促進事業、鉄道の駅・エレベーター整備事業の実施をするとともに、オリンピック会場周辺駅へのホームドアの整備促進事業並びにエレベーター等整備事業を実施していただきたい。

もう一つは、無電柱化の推進であります。これは環境の面からもそうでありますし、景観の面からもそうでありますけれども、特に区市町村道を含めた面的に広がりを持った無電柱化の推進をしていただきたいとお願いを申し上げる次第でございます。

最後になりますけれども、64ページでございます。これは2019年のラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックについてであります。2020大会の成功に向けて、組織委員会が整備を行う仮施設の整備費や警備費、輸送費など、主要6項目を初めとした総経費であります。国や組織委員会とともに削減などの見直しにぜひ取り組んでいただきたいと思っております。開催計画を都民、国民の皆さんに向けて広く公表していただきたい。開催計画は大会開催基本計画に基づいた各開催計画、戦略であります。組織委員会などとともに取り組んでいただきたいと考えております。

費用については、これは繰り返し私たちも申し上げてきておりますが、改めて強く要望するものであります。

最後は、2019年のラグビーワールドカップ日本大会開催までに、東京都での受動喫煙防止について、我々もちろん頑張りますけれども、条例を制定することを求めて、私からは終了とさせていただきます。

大西さんのほうから一言。

○都議会民進党 政調会長の大西でございます。どうぞよろしく願いいたします。

私は足立区選出でございます。御存じのように足立区を初めとして、東京東部の地区は経済的に厳しい方が多くおられるのもまた事実でございます。私も小学生から大学生までの子供がおりまして、おやじの会にもよく入っておりますので、そこでいろいろなお子さんと接する機会に多く恵まれます。

その中には、本当に大変な状況で頑張っている子供もたくさんおられます。本当は志、やる気があるのにだんだんそれがなえていく。そんな子供もよく見ることができます。先ほど幹事長からもお話がありましたが、経済格差が貧困の連鎖にならないように、ぜひここは強い東京都のバックアップが必要と考えておりますので、どうぞよろしく願いを申し上げます。

○都議会民進党 政調会長副会長をしております西多摩選挙区の島田でございます。

西多摩選挙区なのですが、前の知事は多摩地域に足が遠かったみたいですが、知事におかれましては、奥多摩、檜原村のほうに就任直後来ていただきまして、地域の方も大変喜んでいました。

西多摩地域も観光振興ということで、特に奥多摩湖、ダムがありますけれども、ああいうものも、前に私も湖面利用などを提案したことがあるのですが、今回も焼酎特区ということで、いろいろな改革をすればまだまだ観光資源があるので、ぜひ観光振興と、多摩地域も産業の空洞化が懸念されておまして、そういった点もぜひ進めていただきたいと思っております。この間、知事がステーキを食べている映像がテレビ、SNSでありましたけれども、西多摩地域に秋川牛という美味しいブランド牛がありまして、そういう資源もありますので、ぜひまたお越しいただきたいと思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

○都議会民進党 同じく政調副会長の西沢でございます。私から、監理団体改革をこの中の要望にも入れさせていただきましたが、広く外郭団体の改革について、東京大改革ということで、情報公開、この場もそうですし、公文書管理であったり、今議会では内部通報制度や職員目安箱に触れさせていただきました。

この監理団体、外郭団体の改革はすごく大きな本丸だと思っております。団体そのもののあり方であったり、退職職員の再就職のあり方であったり、東京都との契約であったり、そうしたものの全般の情報公開を含めた改革が大変重要だと思っております。

都議会民進党としては、これまでの蓄積、取り組んできた長年の経験もございますし、ぜひそうした部分についても進めていただければということをお願いさせていただきます。

○司会（武市財務局長） 最後に知事から、お願いします。

○小池知事 きょうはたくさんの御要望を直接伺わせていただきました。

一つ一つ精査させていただいて、年明け早々から知事査定が始まりますので、その中で

判断をさせていただこうと考えております。予算案は1月下旬に発表させていただきますが、事前に皆様方に御説明に行くようにしたいと考えております。

2月の半ばの第1回の定例会でございますけれども、これまで2回定例会を経験いたしまして、国会と事情が違ったりして戸惑うところもございましたが、皆さんにいろいろとサポートしていただいたおかげで、何とかこれまで乗り切ることができたかと思っております。

これからも皆さんと建設的な議論を通じまして、私がよく使わせていただいている都民ファーストの都政をぜひとも、ともに作り上げていきたいと思っております。これからも、御協力をよろしくお願い申し上げます。本日は、ありがとうございます。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、終了とさせていただきます。

お忙しいところどうもありがとうございました。

（都議会民進党 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

続きまして、民進党都議団の皆様でございます。

（民進党都議団 入室）

○司会（武市財務局長） 民進党都議団の皆様でございます。

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

どうぞ御着席をお願いいたします。

これより民進党都議団の皆様からの平成29年度予算編成に関する要望を始めさせていただきます。

始めに、知事から一言申し上げます。

○小池知事 改めまして、皆さん、こんにちは。野上幹事長を初めとする民進党都議団の皆様方におかれましては、日ごろの都政運営におきまして、いろいろと御協力を賜っておりますことを改めて感謝を申し上げたいと存じます。

私はずっと東京大改革という旗を上げさせていただいているわけですが、今回、このように政党各会派の御要望を直接知事がお伺いする。そして、それをインターネットなどを通じまして見える化をするというのも、一つの東京大改革のあらわれと御理解いただければと思っております。

今回のこの予算の御要望につきましては、それぞれ都民を代表する皆様方からの御要望でございます。しっかりと受けとめ、また、都民ファーストの、私にとりましては初めての予算案を編成してまいりたいと考えているところでございます。

大変時間が限られている中でまことに恐縮ではございますけれども、ぜひ皆様方の御要望を伺わせていただき、ちょうど知事に就任いたしましてその直後に新しい都政に向けての政策提言などもいただいております。

そういったこともいろいろと参考にさせていただきながら、この4カ月、5カ月をやっ  
てまいったわけでございます。目指す方向は都民ファーストと同じではないか。このよう  
に思うわけでございますので、どうぞ皆様、きょうは忌憚のない御意見を、短い時間では  
ございますがお聞かせくださいますようによろしくお願いいたします。

どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（武市財務局長） 幹事長、お願いできますでしょうか。

○民進党都議団 民進党都議団幹事長の野上ゆきえです。本日は、平成29年度東京都予算  
要望ということで、お時間をいただきましてありがとうございます。

私どもは会派結成以来、知事が掲げる改革の政策に大変共通したものを掲げて、私ども  
も東京都議会議員として活動させていただいております。ぜひとも知事が掲げる大改革を  
進めるためにも、私どももできる限りのことをやらせていただきたいと思いますので、今  
後ともよろしくお願いいたします。

まず、予算要望書の中身でございますが、少し時間も限られておりますので、3ページ  
に重点要望項目としてまとめさせていただきました。

政策の中身については、政調会長以下、御説明をさせていただきたいと思えます。

○民進党都議団 政調会長を務めております南多摩選挙区選出の石川良一でございます。  
私から、まずはこの3ページの①から御説明をさせていただきたいと思えます。

知事におかれましては、第3回定例会でみずからの給与を半減するというところで、さら  
にまたここに来まして、豊洲の盛り土問題等で2割カットするというところで、みずから身  
を切る改革、けじめをつけるということについては、本当に心から敬意を表する次第でご  
ざいます。

今後、都政を展望したときに、やはり人件費の問題は大きな課題になっております。つ  
いては、8月にも要望させていただきましたけれども、身を切る改革を副知事あるいは教  
育長、目の前においでになるわけでありますが、特別職もまずはしっかりとけじめをつけ  
ていく。こういうことも今後は必要になってくると思っております。

2つ目は、特命随意契約の企業の情報公開、また、その見直し、これは都の外郭団体も  
当然含まれるわけでありまして、こういうものをしっかりとさらに進めていただきた  
い。下請企業等に都議などが役員として兼職しているケースなどもあるわけございま  
すけれども、こういうものに対しても、しっかりとした規律の徹底をぜひ図っていただ  
きたいと思えます。

3点目は、区市町村への財源・権限・人間ということで、分権の問題でございますけれ  
ども、これは具体的に一つ挙げさせていただいておりますが「新・元気を出せ！商店街事  
業」は長らく行われておりますし、これは復活予算で大体毎年復活してきている予算であ  
りますが、これは予算の内容からしますと、むしろこれは区市町村の事業として移管して  
いく事業ではないかと考えておまして、どちらかという政治予算のような形で運用さ  
れておりましたけれども、よりきめ細かな対応をしていくためには、区市町村に移管され

るべきではないかと思っております。

4点目の、人事委員会の勧告の関係でございますけれども、これはどうしても大きな企業を中心として人事委員会のピックアップがされているわけでありましたが、やはり零細企業の比重もしっかりと見ながら進めていく。そのために50人未満の事業所も対象にしていくべきではないか。こういう提案でございます。

5点目は、医療あるいは介護についての特区の問題でございますけれども、医療保険、介護保険ともに保険制度ということで、制度としては安定しているのですが、逆に民間の資本ですとさまざまなニーズに対応し切れない面があるわけでございますので、これは東京都が主体的にぜひこういう壁を突破していただきたいということでございます。

ちょっと飛びまして、予算措置が必要なものということで、①がございまして。これは知事が進めております無電柱化の問題でございますけれども、やはり土地区画整理事業とか再開発事業などは権利を制限しているという、地権者にある意味で負担をかけている事業でもございまして、こういうものに対しては、しかも、また新しく道路等が敷けるといふメリットもありますので、こういうものを優先しながら、無電柱化を推進していただくような補助制度をぜひ創設していただきたいということでございます。

また、少子化対策でございますけれども、まずは少子化の問題、日本では結婚問題と言われております。実際には、非嫡出子の出生率は、日本ではまだ2%でございます。20年前は1%でしたけれども、これは本当に社会の制度の問題でございます。結婚、妊娠、出産、子育て、学校等々という段階で、結婚のところで実際はつまづいて進まない。これが実は少子化の最大の原因なのだ。因果関係をしっかりと分析していきますと、そういうことが明らかになってきて、結婚に対する施策はほとんど今までやられていないのが実態でございます。ぜひ前に進めていただければありがたいと思っております。

○民進党都議団 続きまして、私、板橋区選出の宮瀬から御説明させていただきます。制度改革が必要なものとして、6番目に挙げております天下り、いわゆる再就職の問題でございます。東京都では、原則的には適材推薦団体として、基本的には全て天下りがオーケーになっている。今では管理職の4割が再就職しておりまして、大阪のように基本は原則禁止とすべきだと私は思っております。

また、全2,500事業の事業評価をぜひ見直ししてほしい。PDCAサイクル、現状の数値がほとんど数値化されていないということは一般質問でもお伝えしたのですが、実はその次にあります2020年に向けた東京都の取り組みということで、大会後のレガシーを見据えていきましょうということで、冊子も出ているのです。この冊子をめぐりまして、行程表がこのような出ているのですが、2020年以降がほとんど書いていない。つまり、数値目標がなく、都民にとってオリンピックがどういう便益、メリットがあるのかわかりづらいところで、数値目標を設定していただきたい。

広報が東京都はたくさんいい政策があるのですけれども、ほとんどの政策が8割から9割は知られておりません。ニーズがある方にも知られていない状況なので、ぜひ神戸市に

倣いまして、広報統括官とか、広報の戦略的な見直しをすべきと考えております。

また、都営地下鉄を民営化して、東京メトロとの一元化をぜひ図っていただきたい。世界の大都市の中で地下鉄が2本走っているのは、本当に東京都だけであります。費用が高い、乗りかえが大変。これは都民目線からいって不適切だと思っております。

最後のほうになりますが、予算措置が必要なものとして、3番に挙げております。今、心停止で救急車で運ばれる方は年間1万2,000人あります。しかし、AEDが実際に使われていないといった状況があります。コンビニ業界のヒアリングも行いまして、あと一押し、財源が必要であれば、コンビニにAEDを配備できる。そうしますと、24時間コンビニにAEDがあるということは使えるということで、重ねて要望したいと思っております。特別消防団とか、パトカーにぜひAEDを配置していただくと、より都民の命を救えると思っております。

最後のほうになりますが、今まで施設にさまざま、子育て、住宅施策にお金を使ってきましたが、人に重点を当てた子育てクーポンですとか住宅クーポンをぜひ検討していただきたい。東京都住宅審議会でも出てまいりましたが、都営住宅の新しい建造がない。一方で空き家対策も進んでいないということで、このままでは行き場がないセーフティーネットの住宅がなくなってしまうので、ぜひクーポンという形でお願いしたい。

最後になりますが、首都直下地震の際に、非常用電源、病院のための電源が今、3日分と決められているのですけれども、東日本大震災の際には停電が5.4日間または6日間ということで、このままですと、首都直下地震が起きたときに病院の電力がとまってしまいます。ぜひ備蓄の燃料の日数分をふやしていただきたいと思っております。

以上でございます。

○民進党都議団 それでは、私、杉並区選出の田中から御要望いたします。

まず、4ページ目の予算措置が必要なものの6番から御説明をさせていただきます。犬猫の殺処分ゼロは小池都知事も公約に挙げていらっしゃいましたけれども、その具体的なやり方なのですが、東京都は、以前は民間の保護団体を活用したというやり方が非常に進んでいましたが、今は団体に本当に丸投げで、去勢手術とかそういうものも東京都はやっていないのです。民間団体が請け負ってやっている。ですので、獣医師の皆さんともお話をさせていただいたことがあるのですが、そういった避妊去勢手術は自分たちも協力はしていきたいとおっしゃっていますので、ぜひ連携をして、そういったところを進めていただきたいと思っております。

将来は、保護に関しては民間の力をかりてやったほうが私はいいのではないかと思います。その次にも書いてありますけれども、今、東京都のセンターは劣悪なペット業者とか、ブリーダーなどの管理、取り締まり、そういうことに非常に手をとられる。事業者が日本一多いわけです。ですので、そちらも力を入れていただいて、保護のほうは民間の事業者、保護団体の方々とぜひ連携をとっていただきたいと思っております。

次は保育園待機児童の問題ですけれども、保育士さんと保育園用地の確保が2大課題だと思いますが、そのために土地所有者の方々に対する補助が非常に短過ぎるということが

言われています。将来少子化になったときに、保育園はもう撤退されてしまうのではないかという不安が非常におありになって、ですから、期間の拡大をもう少し図っていただきたいという地主さんたちからの御要望が出ているのを、いろいろな自治体の方から聞いておりますので、ぜひ御検討いただければと思います。

次は、養子縁組です。先日、民間事業者の規制の法律ができましたけれども、東京都では、ゼロ歳児虐待防止のための特別養子縁組が一件もないのです。児相で今までやっていないということなのです。今回おやりになる方向だということですが、経験がない。今、虐待対応で非常に人手不足ということもありますので、ぜひ優良な養子縁組あっせん事業者とうまく連携して、ゼロ歳児の養子縁組を進めていただきたいと思います。

それから、都知事もごらんになった障害児の保育園が杉並にあるわけですが、あれがなかなか広がらないのは、一つは杉並区のほうは保育園の形でやっているのですが、都のほうは障害児の療育の観点でやっているのです。それで利用料、値段の折り合いがつかない。さまざまな問題がありますので、ここも広がるように都でも御検討いただければと思います。

最後ですが、先日、IR法が可決しました。私たちはIRに賛成なのですけれども、一方でIRがなくても日本はギャンブル依存症が世界に比べると非常に多い。これはパチンコ・パチスロがあるからだと思うのです。ですから、この依存症への具体的な対策、支援、全ての依存症がそうですけれども、罰することよりも治療をしなければ治りませんので、そちらのほうにぜひ東京都として力を入れていただければと思います。

私からは、以上でございます。

○民進党都議団 最後に、私から2020年東京大会に向けて2点だけ。1点目は、大会の施設整備についてです。ロンドン大会で行われた建設の手法は、受注者側と発注者側の間に立った第三者がプロジェクトマネジメントを行って、資材調達から、あるいは価格設定から、規模から調整を図るような手法がとられました。

ぜひとも、これは全部東京都の施設にお願いするということにはいかないかもしれませんが、そういった取り組みを通して見える化を図って、税金を一円でも安くというか、効率的な使い方をしていただきたいという要望をさせていただきます。

また一点、特に2020年、医療界では心配なことが一つあります。感染症の対策であります。例えば、オリンピックは毎回開催された後にその国へ行くと、その周辺の地域では感染症が大幅にふえます。これはなぜかという、やはり人の出入りがもちろんオリンピックですから激しいということと、もう一つ日本で心配しなくてはいけないのは、移民の政策がないですから、アメリカで言えばきちんと留学をされたり仕事をされる方にとっては、きちんとどのワクチンを打ったかの証明書を提出して、その土地で働いたり勉強していただく。しかし、それは日本ではありません。ですから、2020年は人の出入りが激しい、特に昼間人口が最も多い日本の首都東京で行われるということで、ぜひとも感染症対策、封じ込めの対策をしていただきたいと思っております。

以上です。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

最後に、知事から一言お願いいたします。

○小池知事 貴重な御意見を盛りだくさんで伺わせていただきました。年明け早々から知事査定を始めてまいりますので、そのときに一つ一つ判断をさせていただきます。また、1月末ごろには、御承知のように予算案の発表となりますけれども、その発表の前に事前に御相談、御説明をさせていただきたく考えております。

これまで2回定例会を経験してまいりましたけれども、国会とかなり勝手も違ったりいたしました。皆様方の御協力によりまして、何とかここまでたどり着いてきたという感じでございます。

年が明けますと、今度はいよいよ第1回の定例会が2月中旬からでございますが、どうぞ都民ファーストの観点は共通するものかと思っておりますので、これからも御協力、御支援のほどをよろしくお願い申し上げます。本日は、どうもありがとうございました。

○司会（武市財務局長） ありがとうございます。

では、終了とさせていただきます。お忙しいところありがとうございました。

（民進党都議団 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

では、お願いいたします。かがやけTokyoの皆様でございます。

（都議会会派かがやけTokyo 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

どうぞ御着席をお願いいたします。

これより、かがやけTokyoの皆様からの平成29年度予算要望を始めさせていただきます。初めに、知事からお願いいたします。

○小池知事 改めまして、もう5カ月目に入りました東京都知事小池百合子でございます。

かがやけTokyoの皆様方には、就任のその日には3人そろって都庁入り口でお迎えいただいたことを今もしっかりと覚えております。本当にありがとうございます。

そして、これまで2回の定例会を無事に過ごすことができました。皆さんの御協力に改めて感謝を申し上げたく存じます。

東京大改革、この予算要望を直接お受けする、そして、それを見える化するということも、東京大改革の一つのあらわれでございます。これまで60の団体の御要望を受けてまいりました。区市町村のそれぞれ団体の方々からも、長の方々からも、時間が短いと叱られながら受けてまいりました。いずれにしましても、こうやって直接皆さんの御要望を聞く、それを実現していくための努力をしていく。これがこれからの私の大きな役目であると考えており、そのことが都民ファーストの精神だと考えております。

今ほど都政の変化を求められているところはございません。かがやけTokyoの皆様方のさ

まざまなどがった政策も、これからは大きな刺激となって東京大改革を進めるエネルギー役、牽引役を果たしてくれるものと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

非常に限られた時間ではございますが、皆様方の御要望を伺わせていただきます。

よろしく、どうぞ。

○司会（武市財務局長） それでは、幹事長、よろしく願いいたします。どうぞ御着席のままお願いいたします。

○都議会会派かがやけTokyo かがやけTokyoでございます。私は幹事長を務めております両角みのるでございます。政策調査会長の上田令子、おときた駿でございます。

私たちがかがやけTokyoでございますけれども、昨年までは、このように直接公開の場で予算要望をする機会はございませんでした。このように、まさに公開で知事に予算要望をさせていただく機会を得たことを、大変ありがたく思っているところでございます。

私たちは、予算要望ではなくて、予算に関する提言という形でまとめさせていただいております。今、お手元にお配りしてございます大体50ページのものになるわけでございますけれども、私からは全体について触れさせていただきまして、詳細につきましてはそれぞれの議員からお話をさせていただきたいと思っております。

1 ページをごらんいただきたいと思っております。私たちは、持続可能な都政をキーワードに、いかに税金を無駄なく優先順位づけをして必要な政策にお金をつけていくかという観点で、これまで議会活動を続けさせていただいてまいりました。小池知事が今般、都民ファーストを掲げ、情報公開の徹底、ワイズスペンディングを大きく前進させようとしていくその姿は、まさに私たちのこれまでの活動と全く軌を一にするというように理解しているところでございます。

今回、1 ページ目に大きく3つの柱を出させていただいております。1点目は「徹底した行財政改革でワイズスペンディングを実現！」でございます。この中では、例えば東京都の外郭団体につきましては、これまで私どもも一般質問あるいは予算の提言等を含めて、さまざまな提言をさせていただいておりますが、監理団体、報告団体以外にも、都が出資している団体がございます。そうした外郭団体の全体像をまずは明らかにさせていただいて、抜本的な情報公開も含めて、外郭団体のあり方をもう一度見直しを進めていただきたいということを御提案させていただきたいと思っております。

この持続可能な都政を考えると、行財政改革のプランが現在は存在しません。一時期、石原都政の時代にかなり行財政改革を一気に進めて、その後はその余祿で生きているようなところもございますので、小池知事になられてさらに先を見て、行財政改革の小池プランをつくっていただけないかなと思っております。

2点目につきましては、「優先順位を明確にした戦略的政策によるサステナブルTokyo！」ということで打ち出しているところでございます。知事就任後、すぐに緊急児童対策の補正予算を組んでいただいて、この面もかなり加速して進んでいると認識しているところでございますが、こうした環境整備を通じて、女性も男性も働きやすい東京を実現していっ

ていただきたい。あわせて都庁におきましても、20時の完全退庁が、これはかなり大胆な進め方だと思いますけれども、今、その効果が出てきていると思いますので、都庁のみならず、この働き方改革を東京都全体に進めていただくような政策を推進していただきたいと存じます。

3点目が「脱ブラックボックス・脱ドン政治。情報公開と議会改革！」という柱で打ち出させていただいております。東京都の契約事務でございますけれども、全国の地方自治体では、ほとんど一般競争入札をベースに入札業務は進められておりますが、東京都のスタンダードは指名競争入札という形になってございますので、この一般競争入札における参加条件の緩和を通じて、一般競争入札をスタンダードにするような改革をしていただきたいと思います。さらに、特命随意契約は大変な数に上ってございますので、特命随意契約の理由をかなり厳格化して、そのことを通じて契約・入札の透明化を図っていただきたい。

これらを通じて、この知事の進めるワイズスペンディング、情報公開の徹底をさらに前へ進めていただくことを要望させていただきます。

細かい点につきましては、政策調査会長の上田から説明をさせていただきます。

○都議会会派かがやけTokyo どうぞよろしく願いいたします。

まず、2ページをお開きください。一般会計歳入につきましては、5兆2,083億円と前年度に比べて3.7%ふえておりまして、しかしながら、かなり増減があるということで、財務局のほうも懸念しているところで、将来的な見通しについても不透明な部分があるという点でございます。

都債の発行残高は、現在のところ、3ページの5兆9,000億円ということで、微減はしていますが、横ばいでございます。

4ページをお開きください。今年度は、将来世代の負担を考慮しまして、都債発行額を抑制して努力をしていただいております。現時点では、5ページを見ていただきますと、起債依存度が5%と1.5ポイント低下でございます。6ページに移りまして、生産年齢人口は激減するので、税収は確実に減少することが御承知のとおり予想される次第でございます。

ここで、7ページに行ってくださいまして、仮に都税収入の34.8%を占める法人二税の税収が今後も一定だとしても、生産年齢人口の減少により福祉保健費が拮抗するような状況になるのではないかと。ほぼ確実な税収が減ることを見越して、こうした財務体質の強化を行うべき時期にまさに小池都知事が就任されたということで、改革マインドを持って私どもも、主に将来世代の投資を中心にしまして提言をさせていただきます次第でございます。

その中で、まずは8ページで、6つのカテゴリーに分けさせていただきました。「ワイズスペンディングで持続可能な健全都政運営へ」、「子どもファーストで未来へ投資を」、「ダイバーシティを実現するスマートな福祉支援」、「スマートシティ東京で都市間競争に勝つ」、「セーフシティを目指した都市環境整備」、そして「多摩・島しょの個性かがやく地域づく

り」というところを目指すものでございます。

続きまして、11ページ一番下、都区財調と市町村総合交付金の財政支援に対する三多摩格差がないように、また、特に特別区におきましては、節税意識が高まるような公平性・公正性・透明性の担保を求めるものでございます。

次に、15ページをお開きください。組織につきまして、早速知事は御就任のときにイクボス宣言をなさいました。そこで、男性職員の育児休暇の取得や、女性の幹部職養成について、私どもは、要望する次第でございます。

続きまして、20ページは、1ページにも書きましたが、学校ファーストから子供ファーストということで、その強い思いが知事より反映された教育大綱も出たところでございます。引き続き子供の貧困を鑑みまして、学校教育、体罰、いじめ防止にさらなるお力を注いでいただきたいと思いますと思っております。

22ページで、保育の問題におきましても、都有地の活用推進、先ほども幹事長より話がありましたが、緊急対策を講じ、4月からの受け皿も非常に広がっているところでありますが、待ったなしというところで、さらに知事は過日、整備を拡充するというもおっしゃっていただきまして、私も保育園待機児童となった保護者の一人といたしましても、さらなるこの取り組みを要望するものでございます。

次に、24ページの、今年度予算もつきます新生児里親委託、養護施設で暮らす子供たちの里親・養育家庭推進につきましても、さらなる取り組みをお願いするものでございます。

29ページは、障害者権利条約の批准、障害者差別解消法の施行等も進めておりまして、人権指針も15年ぶりに見直されたところでありまして、このまま進めて周知・啓発に努めていただきたいと思いますと思います。

38ページで、オリンピック・パラリンピックにつきまして、開催都市として五輪組織委員会への関与を強化し、都議会議員及び都民に積極的な情報公開をさらに進めていただきたいと思います。私、政調会長よりは、これぞごったしたトピックになる御説明をさせていただきます。

続きまして、音喜多駿より政策について御報告させていただきたいと思います。

○都議会会派かがやけTokyo 一言だけ、いろいろ我々が指摘したことは、既に知事におかれましては御承知おきのことも多いかと思えます。たとえ知事が予算編成をしても、一夜にして全ての課題が解決するわけではないと思えます。

しかしながら、ここは大きな転換点の一つであることもまた間違いありません。例えば税金の使い方。今まで事業者や団体、施設についていた予算を利用者のほうに振り分けていく。こういったことも都民ファーストから中長期的には可能だと思っております。こういった新しい試みを行えば、必ず大きな抵抗はつきものです。ですが、そういった小池流ともいえる東京大改革をしっかりと進めていく限り、我々はしっかりと知事を後押しして、その改革を支えていきたいと考えておりますので、ぜひ今回の予算提案の御検討をよろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

それでは、知事からお願いいたします。

○小池知事 最後はお励ましありがとうございました。

これからも東京大改革を一つずつ確実に前に進めていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

（都議会会派かがやけTokyo 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

お願いいたします。

（都議会生活者ネットワーク 入室）

○司会（武市財務局長） 都議会生活者ネットワークの皆様でございます。

どうぞよろしくをお願いいたします。

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） どうぞ御着席をお願いいたします。

大変お待たせして申しわけございませんでした。これより、都議会生活者ネットワークの皆様からの平成29年度予算要望を始めさせていただきます。

初めに、知事から一言申し上げます。

○小池知事 改めまして、小池でございます。

西崎幹事長を初めとする都議会生活者ネットワークの皆様方におかれましては、まさしくそのネーミングのとおり、生活者の代表として御活動いただいております。心から敬意を表したく存じます。

また、これまでなれない都議会の本会議場でのやりとりではございましたけれども、皆様方のさまざまな御協力に改めて感謝を申し上げたく存じます。

そして、私の標榜いたしております東京大改革。これはできるだけ都政を見える化することも大変重要なことだと思っております。こうやって皆様方の御要望を直接お受けするという点、そして、この模様をネットなどで公開している点など、これからも情報公開を徹底してまいりたいと考えております。

これまで60の団体、区市町村の代表を含めまして、多くの皆様方から6日間にわたってヒアリングを進めてまいりました。これから、いよいよ予算要望、予算の編成を進めまして、皆様方とともに私の言うところの東京大改革をしっかりと進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げたく存じます。

あくまでも都民ファーストの姿勢を貫いてまいりたいと考えております。都議会生活者ネットワークの皆様と建設的な議論を積み重ねまして、ともに2020年、そしてその先の明るい東京の未来をつくってまいりたいと思っております。

限られた時間で恐縮でございますが、どうぞ御要望のほうをお聞かせいただければと存

じます。よろしく願いいたします。

○司会（武市財務局長） それでは、幹事長、どうぞ御着席のままお願いいたします。

○都議会生活者ネットワーク 都議会生活者ネットワークの幹事長を務めます西崎でございます。きょうはこのような時間を設けていただきまして、大変ありがとうございます。

いつもは、私どもは副知事レベルしかお会いできなくて、レベルで失礼しました、知事と直接お話しする機会がなかなか得られなかったものですから、小池知事になってこういった機会を設けていただいて、大変うれしく思っております。

小池知事になって私どもが感じますのは、一般の市民の方たちが大変都政に注目するようになった。今までは、それぞれ地域の市議会、区議会は割と直接的に関係があるので関心も高いのですけれども、国会はテレビで報道されるのですが、その中二階と言われる都議会とか都政がなかなかわかりにくいというのは、非常に多くの都民から言われてきたところで、今、こんなにテレビもマスコミもたくさん来ている中で、都議会も大変な緊張感を持って臨むようになってよかったのではないかと思っております。

小池知事がいろいろなことをやっていらっしゃるけれども、今、一番都民などから関心が高いのは、やはりオリンピックのことだと思います。週刊誌とか新聞でも紙面が多く掲載されているという中で、特にオリンピックは、東京で見られるのは大変うれしいのですけれども、その経費が莫大に膨れ上がるのではないかと、東京自体の財政を後に圧迫するのではないかと、大変懸念される声も聞かれるようになりました。

結局道路ばかりつくって環境を破壊するのではないとか、あるいは実際に自分たちの生活はもっと大変なのに、巨大な施設を建ててしまう。それだけに税金が使われてしまうのではないかと、もう東京はやめたほうがいいのか、返上したほうがいいのかという厳しい声も最近聞くようになりました。

私ども生活者ネットワークは、先日の本会議の討論でも述べさせていただいたのですけれども、多くの都民が納得できるオリンピックをするためにも、むしろ2025年に焦点を絞って、超本格的な高齢社会を迎えるに当たって、障害者も高齢者も子育て世帯も住みやすい東京のまちをつくっていく意味で、バリアフリーの東京、人に優しい、世界の人たちが2020年に東京を訪れたときに、ハードの部分だけではなく、心のバリアフリーという意味で、優しいレガシーを残していけるような、そういったまちづくりを今後は進めていくべきではないかと思っております。

私からは、先日の本会議で一般質問をさせていただいたときに、平成30年までに障害者の差別解消に向けた条例を知事がつくられるということで大変評価しているのですけれども、この夏に訪れました明石市では既につくっておられて、小さいまちなのですが、トップの市長を中心にまちづくりを進めているということと、事業者を巻き込んでいろいろなソフトの部分とかITを活用した、例えばレストランに入ったときに点字のメニューをつくったらそこに補助するとか、あるいは手話通訳をコミュニケーションとして位置づけるとか、ITを活用して、例えば東京ですと病院とか都営地下鉄とか、いろいろなところで必

要なものがITでつながっていくとか、そういうことをぜひ東京でも工夫してやっていってほしいと思っています。

先ほどお渡しさせていただいた重点項目の中から、3人で幾つかお話しさせていただきたいのですけれども、私からは、東京でも格差社会が進行している中で、特に非正規労働者がふえている中で、子供の貧困が言われるようになりました。私も世田谷なのですけれども、実際に私どもの周りの者が子供食堂とかを始めております。東京都もことしから財政的に支援してくださっているのですけれども、自治体が手を挙げなければ支援が行き届かなかったり、あるいは週5日学習支援とか子供食堂を広げないと支援しなかつたり、大変要件が厳しくなっています。

地域では、子供食堂を初め、高齢者の給食サービスとかいろいろなものをNPOや市民グループが担ってまして、これから超高齢社会になって財政が限られていく中で、担い手を市民レベルで、単にサービスだけを欲しいというのが市民ではなく、そのようになっていけるような、そういった人たちもたくさんふえていますので、そういう人たちに対する支援のあり方もぜひ御検討いただきたいと思います。

東京都は大変NPOに対する認定とかが厳しいとか言われているのですけれども、後のNPOが継続して活動していく、持続可能な社会をつくっていくためにも、だめなとか、ごまかしのNPOもあると思うのですが、一緒になって育てていけるような地域社会の醸成のあり方をぜひ御検討いただきたいと思っています。

○都議会生活者ネットワーク 小松久子です。先日は、お気遣いいただきまして、どうもありがとうございました。

女性知事が誕生したということで、私どもは女性の政治団体ですので、女性の視点から都政に目配りされることについて、とても期待しているところです。知事が何度か言及されている液体ミルクのことを、私も実はことしの予算特別委員会で防災の面から都としての取り組みを求めて課題を提起というところで取り上げたところなのですけれども、国も動き出したものの、まだ課題はあるようですが、ぜひ液体ミルクを実現されるといいなと思います。

あわせて、私ども生活者ネットワークは、阪神大震災のころから、東日本のずっと前、あの後あたりから女性の立場での防災を訴えておりまして、特に避難所における女性の視点からの防災対策について、ぜひ東京都は率先して取り組んでいただきたいと思います。

重点項目の中からは「子ども・若者を応援する」の中の9番にありますヤングケアラーのことについて申し上げたいと思いますのは、読んで字のごとしで若い介護者のことです。若者あるいは子供も含まれるのですが、家族の中に高齢者や障害者あるいは病気で療養中の家族を介護している、ケアをせざるを得ない状況に置かれている、そんな子供の実態調査が新潟県の南魚沼市、世田谷区では行われておりまして、年少では小学生から家族のケアを担っている、あるいは家事を担っているという実態が浮かび上がっています。

若者の場合は、そのために学業が続けられなくなったり、就職ができなかつたり、恋愛

結婚などはとても考えられないような状況、実態がありまして、その後の長い人生に暗い影を落とすということは非常に心が痛むものがありますので、東京都としての実態調査にまずは取り組んでいただいて、家族介護者への支援策にぜひ取り組んでいただけたらと思います。

もう一点、子供関連になるのですが、あけて次のページで、環境に関することなのですが、けれども、「持続可能な環境をつくる」の5番目に、新たな化学物資がふえており、「化学物質の子どもガイドライン」の見直しを提案させていただいております。

東京都は、子供を対象とした、子供に対応した化学物質のガイドラインを10年以上前につくっておられまして、私たちはとてもその点を評価しております。これは世界的にも評価が高くて、国に先駆けて取り組んだことだと思います。化学物質を取り巻く状況は日々変化していますので、今、においなども含めて化学物質がちまたに大変あふれているような状況で、子供は感受性が高いですし、化学物質は下に沈むということで、はいはいするような赤ちゃんなどには影響が非常に大きいということで、今の状況に合わせてガイドラインの見直しが必要ではないかと我々は考えています。ぜひその点に目を配っていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

○都議会生活者ネットワーク 山内れい子と申します。きょうは本当に、こういう機会をいただきましてありがとうございます。

私からは、早急な対応が必要なものとして、一つだけお願いしたいことがございます。今、お配りしております4ページの「安全・安心のまちをつくる」の1番目なのですが、私も討論の際にお話をさせていただきました。福島原発事故から5年半がたちました。子供のいじめのことも今、話題になってきておりまして、その対策も必要なのですけれども、実は、東京都では都営住宅やみなし仮設の住宅を提供しているのですが、1年ごとに更新するということだったのです。

調査やアンケートが行われてきて、皆さん不安をお持ちでした。来年3月からそれを打ち切るということで、今、お住まいの都営住宅から出なければならないということがございます。その際に、5年かけていろいろ転々として今のところによりやく落ちついていらっしゃる。そこをまた出なければいけないとなると、生活圏も学校も変わってくる。それに引っ越しもしなければいけないという状況がございます。15歳だった子供も二十になると、今度は二十になったお子さんが都営住宅から出なければならないというような、こういった緊迫した状況にもあります。

ほかのところでは、そういった公営の住宅に対して要件を変える条例をつくったりしているところがあるそうなのですが、ぜひとも都独自の条件を変えて、皆さんの要望に応えるような形の定住をさせてほしい方、本当にそれを願っている方に対しては、都独自の支援をお願いしたいと考えております。

どうぞよろしく願いいたします。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

最後に知事からお願いいたします。

○小池知事 幾つか御要望をいただきました。

皆様方の貴重な御意見は、これから知事査定へと向かっていくわけですが、一つ一つ判断をさせていただきたいと存じます。また、予算案の発表につきましては、事前に発表前に皆様方にお知らせ、御説明をさせていただきたく考えております。

それから、2度定例会をこの都議会の舞台上で経験させていただきました。戸惑う点もございましたけれども、皆様方のさまざまな御協力により、何とか年を越せるような状況になったのかなと思っております。これからも皆様とは建設的な議論を通じまして、都民ファーストの都政を定着させていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。本日は、まことにありがとうございました。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

以上をもちまして、終了とさせていただきます。

本日は、お忙しいところどうもありがとうございました。

（都議会生活者ネットワーク 退室）

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

以上をもちまして、終了とさせていただきます。

（小池知事 退室）

（深呼吸のできる東京 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） それでは、早速でございますが、始めさせていただきたいと思っておりますので、先生からお願いできますでしょうか。

○深呼吸のできる東京 それでは、東京都小池百合子知事へ、私、東京都議会「深呼吸のできる東京」代表の大津ひろ子から、来年度の予算編成に対し、特に防犯・防災、都民の命と安全を守るための予算と位置づけ、要望をいたします。

1,360万人が暮らす首都東京、その一人一人のかけがえのない命が大切にされる予算編成を期待しています。都政の課題は、少子高齢化社会、質の高い医療、教育と人づくり、防犯・防災対策から始まり、水素等の新エネルギーシステムの構築、都市インフラの整備、芸術文化・スポーツの振興、中小企業政策、雇用の確保、ものづくり支援等、まことに多岐にわたっております。

そして、東京を取り巻くさまざまなファンダメンタルの指標は、現在及び将来に向けて私たちが取り組むべき課題への貴重なシグナルを示しています。人口減少問題、地球温暖化問題等、越えるべきハードルは高くとも、一つ一つの課題に東京の総力を結集して果敢にチャレンジし、都民の負託に応えていく義務があります。

都議会議員として、日々地元活動の中から、小さな兆候でも都民の幸せ、東京の活力、魅力向上につながるものであれば、現場で都民の声を聞き、第一線で知恵を絞り、政策に昇華させていく必要がございます。

加えて首都東京からの施策発信が、世界の都市政策をリードする気概をこれからも持つことが期待されることです。そのために、政策分野の横断化を図りつつ、政策形成プロセスを風通しよく、見通せるようにしていくことも重要です。

こうした観点から「都民一人一人の幸せ」の実現のために、知事におかれましては、平成29年度の予算編成に反映されるよう要望いたします。

それでは、具体的に「1.『命と安全を守る東京』実現に向けた予算編成」です。人の命を人に奪われない政策への財政面での支援をお願いします。いじめは犯罪。体罰、暴力、虐待、自殺等の撲滅と未然防止を図ること。次に、消費者保護行政の強化を図ること。日常生活での、例えばこんにゃくゼリー、介護ベッド、ブラインドのひもで亡くなる生活事故の方々が交通事故の6倍、平成27年度で1,753人に上っています。消費者行政の一層の強化、身近な生活の中での危険防止に諸対策を図っていただきたい。そして、防犯・防災、警視庁、消防庁の予算と内容のさらなる充実・強化を図ること。

「2.『高度防災・防犯都市東京』に向けた予算編成」です。高度防災都市東京は、あらゆる自然災害から都民の命と安全を守る施策を推進・充実されたい。とりわけ、首都直下型地震などの大規模災害については、災害時医療派遣チーム（DMAT）と、国で検討中の災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）の機能と連携しながら発揮できるよう、環境衛生監視員の活用、避難所現場での衛生対策に活躍できる人材の育成と組織化を検討すべきでもあります。

災害からの復旧においては、都民生活、経済活動の早期立ち直りを円滑に進めるため、中小企業等の事業継続計画策定の強化・充実をお願いします。また、自然災害を予知するための調査研究の拡大もされたい。

また、安全安心首都東京で、引き続きさらに地元からの非常に大きな声もございます防犯カメラ補助事業の拡大をされたい。

「3. 東京がリードする、地球温暖化対策の実践」です。この11月にパリ協定が発効されました。2030年目標の達成に向け、東京発のさまざまな取り組みを展開していただきたい。水素エネルギーの実用化など新エネルギーシステムの構築、2020年オリパラの開催時、ごみの分別や3R施策の新たな展開を図り、世界に発信する予算をお願いします。昭和39年のオリンピックのときには、私の家もコンクリートのごみ箱でした。あのときにごみ箱がコンクリートからポリ容器にかわりました。そんな画期的な施策を次のオリンピックで実現したいと思います。

また、環境に配慮したライフスタイルへの一層の転換を促すため、東京ならではのレジ袋削減ムーブメントを起こす予算をお願いします。

「4. アスベストによる健康被害防止策の強化」です。既に東京では、ピークを迎えている建築物の解体工事、アスベスト飛散による健康被害防止のため、しっかりとした調査のくいを都に打ち込んでいただき、防止を図られたい。そのためにも、建築物・アスベスト含有建材の使用実態調査、調査データ台帳の整備を図り、立入調査員（Gメン）の拡充

をお願いします。また、胸部レントゲン写真の読影ができる医師の増員も必要です。

「5. 建設事業者に対する労働環境の改善」です。建設国保の継続、また、アスベストと連携してアスベスト由来のがん対策事業補助の拡充をお願いいたします。

「6. 公衆衛生も世界一の都市・東京へ、万全の備えを」で、そのための予算を、感染症の予防とその対応策、世界に誇れる健康で衛生的な都市、最近、相談件数が増加もしておりますダニ、トコジラミ等、生活衛生の向上を図ること。オリパラに向けた暑さ対策とも期待されるドライミスト装置についても、衛生的な面から日常の維持管理システムの構築を図ること。

「7. 女性や高齢者、誰もが生き生きと活躍し、安心して暮らせる社会の実現」で、そのための女性の活躍促進、シニア層の持続的な活躍の促進の予算編成です。

「8. 国の危機的な財政状況の中で、都財政の力を活用し、税制度の構築を強固に」です。都は国へ先駆けて債務残高を非常に頑張って減らしてきていました。これを将来世代への負担を引き続き減らす方向で、国に先んじて解決モデルを創設されたい。施策構築に当たっては、第三者機関、専門家の知識・経験も十分に活用願いたい。

「9. 2020オリンピック・パラリンピック開催後も見据えた会場周辺の都市づくりに向けた予算編成」をお願いします。地元渋谷区は、昭和39年のオリンピック時、千駄ヶ谷地区町会の分断、立ち退きを余儀なくされました。オリンピックが終わり、祭りの後の廃墟になり、そうした思いを今も持ち続けて生きています。次のオリンピックは開催後、さらに輝くまちになるよう、周辺まちづくりの予算編成をお願いします。2020年オリパラ関連の公募企画や工事の見える化をし、都民にわかりやすく理解できるように留意されたい。

「10. 運転免許証の利便性の向上」です。運転免許証は、更新するときに持ち込み写真を持てるようにしてくれました。今のところ持ち込み可能な施設は鮫洲、江東、府中の3運転免許試験場です。午前だったところを午後も拡充してくださいました。しかし、これらは交通違反者の更新指定所でもあります。したがって、優良または一般の都民が更新する、例えばこの都庁内の新宿運転免許更新センターや神田、いずれは指定警察署においても本人の持ち込み写真を認める方向性を検討されたい。

「11. 人と動物のより良い共生社会の構築」です。人の健康寿命進展のための動物飼育研究、災害時の人と動物の共通感染症の問題を解決できる体制を構築されること。

「12. 都民の足としての公共交通機関への支援。交通、首都の顔」の予算です。タクシーなど、地域公共交通の維持・発展と利用者の利用促進、都民生活の向上の観点から、身体障害者や御高齢者、妊婦さんやあらゆる都民のニーズに応えられる、例えば陣痛タクシーを初め、福祉タクシー等の支援拡大を図られたい。働く人の労働環境の立場から、公衆トイレ所在の道路において、短時間パーキングメーターの増設をされたい。バス事業などにおきましては、バリアフリー、低公害車の導入に関する助成措置の拡充を図られたい。

「13. 持続する成熟都市東京の実現へ」です。福祉先進都市東京は、1兆円を超える予算をこの数年つけていただけてきております。引き続き、分け隔てなく生き生きと暮らせる

東京へ、まことの共生社会を実現するために、ソフト・ハード両面で推進されたい。福祉先進都市東京の継続です。

特に雇用の問題を言われております。障害者雇用の促進、身体障害者だけでなく、精神障害者、知的障害者、てんかんのある人、全ての都民が社会で活躍できる雇用に向け、アイデアを出し合い創出し、障害を持った方々の力を生かされたい。肝炎治療医療費助成を拡大するとともに、中身については疾病の進捗やさまざまなきめ細かい丁寧な助成のつけ方を検討されたい。

「14. 私立学校の振興と教育条件の向上、学校安全対策促進事業、公私間の家庭負担の格差解消に向けた総合的施策の充実」を予算編成の点で、今回、復活要望の機会はなくなりましたが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

「15. 信頼できる行政施策の推進に向けて」は、専門家や第三者機関、さまざまな知恵のある方たちと連携を考慮され、身近な都民生活のサービス向上について、引き続き図られたい。

以上、命と安全を守る、防犯・防災、命を守る予算に特化いたしまして、要望させていただきました。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

主要課題に絞っての御要望ということで、どうもありがとうございました。

最後に、知事不在で申しわけございません。副知事からコメントさせていただきます。

○安藤副知事 15項目にわたりまして御説明いただきまして、ありがとうございました。

ただいまいただきました御意見については、年明け早々から知事の査定が始まりますので、きょういただいた御意見も含めて紹介して、一つ一つ判断していくことになろうと思ひます。1月下旬には予算案を発表することとなりますので、その前に事前に御説明をさせていただくようなスケジュールを考えてございます。

きょうはどうもありがとうございました。

○深呼吸のできる東京 長年実務にお詳しい安藤副知事を経て、この予算が実現することを望んでおります。ありがとうございます。

（深呼吸のできる東京 退室）

（東京みんなの改革 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） こちらに着席をお願いいたします。庁内も含めまして対外的にネットで中継しておりますので、マイクを御用意させていただいております。

早速でございますが、先生方、最初に御要望の御説明をお願いいたします。

○東京みんなの改革 よろしくお願ひします。本日は、当会派の予算要望にお時間をとっていただきまして、本当にありがとうございます。無所属なのですがけれども、私はみんなの党より当選しまして議席を得ておりますので、当選したときより行政の改革を第一に掲げさせていただいております。ですので、無駄を排除することにつながる予算要望を行って

います。

また、私は強く優しい東京をスローガンに掲げまして選挙戦を戦い、当選させていただきましたので、行革、強さだけではなく都民福祉の充実という優しさにもつながる施策の充実を要望しました。

まず、1 ページ目を開いてください。当会派のスタンスを書かせていただいています。小池知事が誕生したことからも明らかなように、都民は改革を望んでいます。改革は都民の生活を守る強さだと私は考えています。

次のパラグラフでは、都税収入も4年連続で増収となりまして、基金の取り崩しも抑制されていることから、だからこそ今でしょうということを、ぜひ予算を手厚く充てていただきたい弱い立場に置かれている人たちについて触れました。

具体的に挙げさせていただいたのは、貧困高校生、子供食堂、奨学金の滞納です。保護者が違えば、子供の教育や食事、生活に違いが出てくるということはわかるのですけれども、一見目には見えない相対的貧困がふえています。ことし9月にNHKで進学を断念した貧困女子高生は、相対的貧困であるにもかかわらず大バッシングを浴びたという騒動がありました。このことからわかるように、一見目では見えない問題の深さがあります。

今や日本の子供の6人に1人が相対的貧困と言われておりまして、これは大人も含むのですけれども、東京の相対的貧困率は19.85%。20%近くて、ワースト15位。下から数えたほうが本当に早いという状況になっています。また、子供食堂がふえているのも、こうした相対的貧困にある子供がふえているということだと考えています。親は仕事で忙しい。食事が満足に食べられないということが問題であると私は考えます。

こうした子供たちに手厚い予算の充当を要望しますし、大学の奨学金の滞納についても深刻です。私は、大学であれば、通える学費に抑えるということが一番だと思うのですけれども、いずれにしても、給付型の奨学金に十分な予算をとっていただき、学習意欲のある子供たちが一人でも多く受給できるようにお願いしたいと思います。

最後のパラグラフですが、私の重点政策の一つである女性の働き方について触れさせていただいています。時代は変わってきていると思っても、家事、育児、介護とまだまだ女性が一人で何役もこなしていることを当たり前だと思っている人も多くて、これに働くということまでのしかかってくると、女性はとても大変です。男性もこれに当てはまる方は大変なのですけれども、比率が大きいということで女性と書かせていただきました。

そうした女性たちのサポートを、働き方改革、男女共同参画、イクボスの推進、家事サービスの補助などでぜひお願いをいたします。予算要望とは違ってきますが、税制の改正をさきの一般質問でもさせていただきました。個人事業主やフリーランスの女性は、ベビーシッター代など確定申告で一部でも認めてもらうことができると、保育所に預ける必要がないという女性も出てきます。あらゆる形態で働く母親たちの声を聞いていただいて、国に提言できるものはしていただいて、都で対応できるものはぜひしていただきたいといます。

具体的な要望をさせていただきます。時間があと数分しかありませんので、駆け足でさせていただきます。1ページ目で、「1、成長する成熟改革都市・東京」の項目です。どの施策にも当てはまりますが、ITを生かすことで事務の効率化を図り、職員の負担を軽減して都民サービスの向上を図っていただきたいと思います。

同じく1ページ目の下から2つ目、東京五輪については費用が膨張しており、都民ならず国民感情も芳しくありません。今後も不断の削減に取り組んで、都民・国民の負担の軽減に努めていただくようお願いいたします。

その下の公文書の管理です。ずさん過ぎます。私も不名誉をこうむった騒動で、情報開示請求をしたところ、保管期間が5年であるはずが、廃棄したために文書不存在でした。情報公開推進委員会に異議申し立てをしたところ、何と廃棄したものは存在しなくて、開示しなくていいというようなことになりまして、これでは何のための保管期間なのかということで、たまげたことがあります。意味がありませんので、しっかりと条例化をしていただいて、守るように要望いたします。

4ページ目からは、福祉についてです。待機児童は、質も担保しながら保育園の増設ができるよう、都もより積極的に保育事業者も含めて補助の拡大をお願いいたします。

7ページ目の中段より下の下線部になります。高齢の方と御家族が安心して暮らせるように、特別養護老人ホームの整備の促進のため、地域の必要数を超えて整備を行っている区市町村に対して、財政の負担を考慮した支援をお願いいたします。

8ページ目では、在宅の医療支援や、さきに述べた相対的貧困の家庭の子供たちに、子供食堂や学習支援を行う団体への支援をお願いしたく思いますと書いてあります。また、相対的貧困の子供たちを必要な支援につなげる専任職員の配置をする区市への支援もぜひお願いいたします。

一番下ですが、養子縁組里親の促進の支援をお願いいたします。これはできるだけ早いほうがいいと聞いておりますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

10ページ目中段は、私の重点政策でもあります動物愛護についてです。後ろにも出てくるのですが、ここで一気に要望を述べさせていただきます。知事は殺処分ゼロにすることなのですけれども、処分の多くはほとんどが幼齢の子猫、赤ちゃん猫なのです。数時間置きにミルクをあげるということが、私もボランティアをやっていたのでよくわかるのですけれども、本当に大変です。こうしたミルクボランティアさんたちをお願いしていかないとゼロは達成できませんので、こうしたボランティアを引き受けた方々に、ぜひ物資等の支援はしていただきたいと思いますし、押しつけるだけではなくて、里親を探す里親会などの譲渡の機会の場合もぜひ東京都には設けていただきたいと思います。総合的な支援をお願いいたします。

処分機のない譲渡施設、ティアハイムは今、進んでいると思うのですけれども、ぜひこれは再度要望させていただきます。

11ページ目、私も被爆二世ですので、被爆者援護事業は質問でもこれまで取り上げてき

ております。被爆者と二世のがん検診の充実をお願いしたいと思います。特に二世の胃カメラのがん検診をお願いいたします。

被爆者と、私も含めて二世なのですが、その生い立ちから、そして、してきた経験から、被爆という言葉に大変敏感です。放射線被害のない超音波検診を被爆者の検診に追加してほしいという要望を被爆者の団体の方たちからも受けておりますので、私からも要望させていただきたいと思います。また、被爆二世の検診なのですが、限られた時期にしかならないということがありまして、私も断念したことがあります。いつでも受けていいということになれば大変楽です。被爆二世はまだ働いている世代が多いので、ぜひ通年で受けられるようにしていただきたいと思います。

そのほか、都立病院の充実や民間病院と連携して、都民福祉の向上をその項目では、させていただきます。かなりたくさん書き込んでおりますので、後ほど読んでいただけたらと思います。よろしくをお願いいたします。

12ページ目は「3、教育先進都市・東京」ということで、子供たちの教育について要望させていただきました。本会議でも、生活者ネットワークより指摘がありましたが、教育大綱の答申素案で、グローバル化が進む東京において、多くの国籍の子供たちが学んでいることを完全に失念している内容になっていると私も感じました。全ての子供たちが、日本で学んでいますから日本に誇りを持っていただくのは当然なのですが、全ての子供たちがその国の文化に誇りを持って学べる環境づくりが国際都市東京には必要だと考えます。配慮を要望しておきます。

子供たち、生徒たちが一つのニュースを知ったときに、どのような報道をされているかを、社会問題を多角的、多面的に判断できるようになるために、全ての都立高校の図書館に、五大紙と言われているものになってくると思うのですが、多くの新聞を置くように要望したいと思います。

そのほか、理数教育に力を入れる施策や、高まる航空需要に対するプログラムの編成、高度専門金融人材の育成についてのほか、教師の負担軽減についても多くの要望をさせていただきました。ぜひよろしくをお願いいたします。

そろそろ最後になるのですが、16ページ目の「4、防災都市 安全安心な・東京」についてです。五輪も近づいておりますので、テロの対策をぜひ万全にさせていただきたいと思います。都民、国民、観光で東京に来ていただいている外国の方はもちろん、警視庁、消防庁、消防団など職員、私も消防団なのけれども、消防団員の命を守る装備等についてもお願いしたいと思いますので、ぜひともよろしくをお願いいたします。

薬物についてです。犯罪としてだけ捉えるのではなく、再犯を抑えるためには何よりも治療が大事だと私は考えております。治療に重点を置いた対応をお願いしたいと思います。

21ページ目は「5、働く人を守り応援する・東京」についてです。最初に述べたとおりですので、どうかライフワークバランスという観点を充実させた施策を東京都では展開していただきたいと思います。

保育士はもちろん、福祉介護人材の負担軽減や給与の引き上げ、中小企業を支える施策も重要と考えておりますので、盛り込ませていただきました。

最後に、観光都市、環境都市東京についても要望書に入っておりますので、どうか読んでいただきまして、反映していただきましたらうれしく思います。

長くなりましたが、以上です。

ありがとうございました。

○司会（武市財務局長） 本当に多岐にわたる要望をまとめていただきまして、また、熱心にお話を御説明いただきまして、どうもありがとうございました。

最後に副知事からも一言申し上げます。

○安藤副知事 少し時間が短い中で、500項目ぐらいあるでしょうか。多岐にわたる御要請をいただきました。年明けに知事の査定がありますので、その中でただいまいただきました要請については、一つ一つそこで検討していきたいと思います。

1月中には予算を編成して、事前に御説明に上がりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

きょうはどうもありがとうございました。

○司会（武市財務局長） それでは、終了とさせていただきます。ありがとうございました。

（東京みんなの改革 退室）

（日本維新の会東京都議会 入室）

（要望書手交）

○司会（武市財務局長） 大変お待たせいたしまして、どうも申しわけございませんでした。

それでは、これから要望を始めさせていただきます。

初めに御説明をお願いできますでしょうか。

○日本維新の会東京都議会 日本維新の会東京都議会のやながせでございます。どうぞよろしくお願ひします。知事はいらっしゃらないのですね。

○安藤副知事 しっかり私のほうで受けとめます。

○日本維新の会東京都議会 残念です。

最初に、知事に要望する機会をいただきたいという要望をしたいと思います。先般から団体要望もインターネット中継されまして、これも見てきました。かなり多くの団体が6日間にわたって知事に要望するというところでございました。私は、この団体要望のあり方はちょっと変える必要があるのではないかと考えています。ほとんどの団体は、要望する機会が与えられなかったわけでありまして。

この聴取された60団体は、1億円以上の都の財政が支出されている団体でございました。例えば難病患者の団体の皆さんとかは要望したいのだけれどもということをおっしゃっていましたが、こういった方々が知事に要望する機会が残念ならなかったわけでありまして。

ぜひこういった皆さんの声もしっかりと聞いていただきたいということをまずは申し上げたいと思います。

時間がありませんが、小池知事のこれまでの都政改革についてでありますけれども、まず、小池知事が登場したことによってこれだけ都政が注目されたということは本当に画期的であり、都政が開かれていく、都政改革が進む一端となったと、高く評価するものであります。

私たち日本維新の会もずっと改革が必要だということを申し上げてきました。都政のおかしなところを指摘し続けてきました。これまではたった一人でぴいちくぱあちく言ってきたということでもありますけれども、今はこれを大きく取り上げていただくことができまして、都民の皆さんに都政のおかしなところが知らされ、これが変わっていく。そういったすばらしい循環が起きていると思います。

2点目の要望としては、小池知事に、ぜひこの小池劇場を続けていただきたいということでもあります。小池さんが注目されないとこの改革も進んでいかないのかなと思いますので、ぜひこれをお願い申し上げたいと思います。

本論に入ります。私どもは次の世代のための政治をしなければいけないと思っています。そういう意味では、財政に対する危機感を持っています。

ページをあけていただきたいのですけれども、急速な高齢化によって社会保障費がどんどん増加していく。社会資本ストックの老朽化、これの維持更新経費が莫大にふえていく。また、いつ来るかもわからない首都直下型地震、オリンピック・パラリンピック大会があるということで、財政需要はこれからうなぎ登りに登っていくことになるのです。

私たちは将来世代のために、知事がかわったこの大きな転換点に、もう一度本当に必要な事業と必要ではない事業は何なのかという大きな仕分けをしていただきたいと思いたし、これに期待しています。ゼロベースでの事業の見直しをぜひやっていただきたいと思いたします。

3点目の要望ですけれども、改革が必要なのです。でも、改革は難しいのです。そこで、小池さんが都政改革本部を立ち上げられました。上山信一さんを中心とする本部でありますけれども、私は見ていまして、この都政改革本部と東京都がちぐはぐな動きをしていると懸念しています。私は、上山さんがこれまでやってきた大阪での改革手法、手腕を高く評価しておりまして、ぜひ上山さんを中心とする都政改革本部をしっかりと都庁全体がサポートしていただきたい。これが改革につながっていくものだと考えております。これは3点目の要望であります。済みません。ペーパーには書いてありません。

ペーパーをあけていただいて、内容に入っていきたいと思いたします。どんな改革が必要かでありますけれども、私たちは改革のセンターピンとなるものとして、天下りの問題にぜひ取り組んでいただきたいと思いたします。これは天下りをしている幹部職員の方がたくさんのお金をもらっているのではないかという批判をしたいわけではなくて、これによってさまざまな無駄な事業、無駄な外郭団体といったものが生き延び続けている。淘汰されずに生

き残っている。そこに多額の税金が突っ込まれている。そこに大きな無駄があるのではないかと私は考えているからであります。1番目の都庁の抜本的なスリム化を実現する上で、まずは外郭団体への天下りを廃止するという実現することができれば、外郭団体の問題、特命随意契約の問題、さまざまな問題が解決するのではないかと考えていますので、これをしっかりと私たちは重点要望としてお願い申し上げたいと思います。

細かい幾つかのポイントに触れます。外郭団体は、社会情勢の変化を踏まえて、整理・廃止をしていただきたいということです。この外郭団体、特に監理団体は目標を設定して、それへの到達度によって長たる者の給与に反映させるという取り組みをしてきたわけでありまして、この目標設定が非常に甘いものだったという指摘をしてきました。ぜひこういった目標設定、目標管理のあり方を変えていただきたいということです。

それから、入札制度改革で、不合理な特命随意契約の見直しにしっかりと取り組んでいただきたいということです。こういった歳出削減の取り組みでありますけれども、大きくメニューをしっかりと示していただきたいと思うのです。今、都政改革本部はさまざまな改革に取り組もうとしていますけれども、メニューが小出しで全体像が見えないという点があります。行財政改革の徹底という意味では、行政改革プランの策定をお願い申し上げたいと思います。

財政改革という意味でいうと、これも何度も安藤副知事にも申し上げてきましたけれども、長期的な財政運営計画を立てていただきたいというお願いでございます。東京都はこれから財政事情が厳しくなっていく。だったら、今、改革をしなければいけないというのが私の考え方でありまして、都がその考え方に立っているのかどうかはよくわかりません。よくわからないというのは、その根拠がわからないからです。都がこれからの財政をどのように考えているのか、財政の支出と収入をどのように考えているのか、どのようにしていこうとしているのかという部分を明らかにしていかないと、それに付随する予算編成は非常に曖昧なものになってしまうのかなと思います。

2番目に書いた都債の発行金額であります。これも私は何度も議会で質問をさせていただきましたけれども、都債の発行ポリシーがいまいち見えないのです。これは歳入と歳出の間を埋める、需給ギャップを埋めるだけのものとなっていないかと心配しています。私は、都債の発行額はしっかりとキャップをはめて、ここを目指していくのだというプランを考えていただきたいと思います。ぜひお願い申し上げたいと思います。これが歳出を削減するための改革であります。細かい点は、ぜひ読んでいただければと思います。

歳出を削減すると同時に、税収を上げていくという戦略が必要だと思います。これからは、もうけるために何をしたらいいかということでありまして、一つはIR法案が通りました。これもかねて申し上げますけれども、私はカジノを含むIRの誘致は、MICEとか国際会議を誘致していく上でも非常に大きな装置となるだろうと考えていますので、ぜひこの誘致に東京も積極的に名乗りを上げていただきたいと思います。

ただ、それに当たっては、ギャンブル依存症対策は当然必要です。これまでも私は提案

してきましたけれども、この際、パチンコ税をもう一度検討していただいて、過去に一度経験していただいたことがあります。このパチンコ税を検討していただいて、ギャンブル依存症対策に取り組んでいただきたいと思います。

インバウンドの需要をしっかりと取り込むことが重要だと考えています。今、都内のホテルはどこもかなり満杯の状況で、東京には行きたいけれどもホテルがとれないという状況です。これはほかの都市も軒並みそういう状況にあるわけですが、これではインバウンドの伸びがどこかで頭打ちになってしまうということでもあります。外国人が滞在する、観光客のさらなる増加に向けたおもてなしインフラをしっかりと整備していただきたいと思います。

3つ目として、特区を活用した規制緩和のメニュー出しをもう一度しっかりとやる必要があるかなと思っています。ここにいろいろと私なりに考えた東京の規制緩和のメニューを考えさせていただいていますけれども、東京は規制緩和によって成長していく大きな潜在需要があると思います。ぜひこれはメニュー出しをもう一度やっていただきたいと思います。

削減する、もうける話をしました。そのお金をどこに使うかでありますけれども、これは次の世代、子供たちのために使っていただきたいと思います。大きなものとしては、教育の無償化を実現していただきたいと思います。

特に私立高校の授業料を無償化するという。これは大阪でもいち早く実現しました。教育に投資するというのが、東京の未来をつくっていくと私は確信していますので、まずは私立高校の無償化から取り組んでいただきたいと思います。

ページをめくってください。小池知事も非常に熱心に取り組んでいただいている待機児童の問題です。マスコミ情報でしか知りませんが、これは小池知事が先般も非常に画期的なプランを発表されました。ぜひこれをしっかりとやっていただきたいと思います。

子供たちの話をすると、児童虐待対策に私はずっと取り組んでまいりました。そういった意味では、舛添知事の時代に、児童相談所のマンパワーを拡充いただきました。これは本当にうれしかったです。児童相談所のマンパワーは、私がさまざまところをのぞく限りでは全然足りていません。虐待を受けている子供たちになかなか手が回っていない状況です。これだけ豊かな自治体であるわけですから、子供たちにもうちょっとここはお金をかけてもいいのかなと思います。児童相談所のマンパワーの増員をお願い申し上げたいと思います。

なかなかニッチなところで、ほかの会派がおっしゃらないところで申し上げますと、放射能汚染の影響です。これは私が6年前からずっと取り組んできたことなのですが、なかなか忘れがちではありますが、放射能の影響は、いつ、どこでどうなるかはわかっていないのです。だから、この影響を注視していく必要があると思います。この活動の継続をお願い申し上げたいと思います。

これは国でやることではないかということもよく言われるのですが、私が自治体

で取り組んでいただきたいと思いますということに、性犯罪の再犯防止にしっかりと取り組んでいただきたいと思いますということでもあります。これも議会で質問させていただきましたが、性犯罪をした、犯行に及んだ人間が刑務所から出てくる。日本はこの犯行をした人が、これは病気ですから、治ることなく罰を受けて刑務所から出てくるわけです。刑務所から出てきて、また同じようなことを繰り返す。再犯率が非常に高いのです。

私は国、自治体が取り組めば、再犯防止はかなり高い確率で押さえ込むことができるのではないかと考えておりました、性犯罪の再犯防止への取り組みを、細かいことは議会質問でさせていただきました。ぜひお願い申し上げたいと思います。

10番目は、貧困の連鎖を断ち切る施策の推進をお願い申し上げたいと思います。

時間がもうないですか。あと何分ですか。

○安藤副知事　そろそろです。

○日本維新の会東京都議会　そろそろですか。あと何点かだけ、済みません。

(4)を見ていただきたいのですけれども、オリンピック・パラリンピックに向けて禁煙条例の早期設定をお願い申し上げたいと思います。国の動向を見てやるのだということでしたけれども、東京が禁煙都市にするのだという強いメッセージをぜひ発していただきたいと思っています。

パラリンピックの成功を何としてもなし遂げていただきたいと思います。そういう意味では、障害者スポーツの練習場所の確保は非常に困難な状況がありますので、ぜひ支援をいただきたいと思います。

また、ダイバーシティとおっしゃっていますので、LGBTの皆さんが住みやすい環境づくり等々、そういったことにもぜひ手を回していただきたいと思います。

最後に、豊洲の問題について一言だけ。ここにはもっと前にも書いてあるのですけれども、豊洲の問題について一言だけ申し上げたいと思います。豊洲の問題は、一刻も早く豊洲に行くのか、それとも豊洲に行くことをやめるのかという判断をしていただきたいと思います。夏に判断するということをおっしゃっていますが、私はこのスケジュールを詰めて考えたときに、少なくとも2月、3月には大枠の判断は可能なのではないかと考えています。

市場業者の皆さんは、この前もおっしゃっていましたが、非常に困難な状況にあって、先が見えないというのは本当に不安な状況だと思います。ぜひ知事にはこの豊洲移転の問題を大局的な見地から早期に判断をいただきたいということを申し上げまして、私からの東京都施策についての提言を終わりたいと思います。

ありがとうございます。

○司会（武市財務局長）　多岐にわたりまして、御熱心な提言をどうもありがとうございました。

知事不在でございますけれども、副知事からコメントをさせていただきます。

○安藤副知事　いつも熱い要望をいただきまして、今回は特に予算の具体的な事業という

枠を超えてさまざまな御提言をいただいたと思います。起債のことなどは予算編成の根っこの問題でもありますので、それらも含めて年明けの知事の査定のときには、一つ一つ議論して予算をつくっていきたいと思います。

1月中には予算をつくり上げますので、公表前にはまだ事前に御説明に上がりたいと思います。

以上でございます。きょうはどうもありがとうございました。

○司会（武市財務局長） どうもありがとうございました。

以上をもちまして終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○日本維新の会東京都議会 知事もこの前挨拶にいらっしゃったときに、しっかりあなたの要望は後から聞くとおっしゃっていただいたので。

○安藤副知事 ちゃんと私自身からお伝えいたします。

○日本維新の会東京都議会 ぜひよろしく願いいたします。ありがとうございます。